



日本マスターズ柔道

ホームページ <http://jmja.jp/>

2018年1月9日
JMJA-News 第17号
日本マスターズ柔道協会

〒244-0801
神奈川県横浜市戸塚区品濃町
553-1 N-1302 森本薫方
電話 090-4022-5992
FAX 050-3730-0846
e-mail info@jmja.jp
発行 会長 三橋 英夫

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会 会長 三橋 英夫

二〇一八年の新年を迎え謹んで新春のお慶びを申しあげます。

本年も皆様にとりまして柔道を通じ、素晴らしい年になりますよう祈念申し上げます。

昨年八月、ハンガリーのブタペストで開催された世界柔道選手権大会は、日本選手団が金七を含む十二のメダルを獲得、また、東京オリンピックで実施される男女混合団体戦でも優勝という輝かしい成績を納めました。



た。他方、オリンピックに向けて「合わせ技一本」復活等のルール改正もあり、一本勝が増える柔道が大変楽しみです。これを機に、柔道人口増加、特に、青少年の柔道家が増えることを念願しています。

願っています。

2017年日本ベテランズ柔道大会 第14回日本マスターズ柔道大会 開会式



昨年六月、和歌山県白浜町で開催された「二〇一七年日本ベテランズ国際柔道大会（第十四回日本マスターズ柔道大会）」は、二年振りの地方大会のため参加者減少を心配しましたが、地元和歌山県はもとより大阪・兵庫等関西地方から多くの選手が参加したこと等により、外国人を含む男女約六〇〇人の選手が参

加し、大きな怪我や事故も無く、成功裡に終了することが出来ました。これは、IJF、全柔連はじめ和歌山県柔連等関係諸団体、会員皆様のご理解・ご協力のおかげであり、心より感謝し厚く御礼を申し上げます。

当協会は、二〇二二年一月「生涯スポーツとしてのマスターズ柔道の普及・振興を図り、会員の心身の健全な発達と青少年の健全な育成に寄与すること」を目的として発足しました。

以来、毎年講道館や全国各地でマスターズ柔道大会を開催してきました。二〇一三年からは、IJF・全柔連との協同開催となり、協会活動は大きく進展すると共に、「礼節を重んじ、正しく組んで真剣に勝負する柔道」が評価され、大会参加者も増加し、併せて、当協会に対する期待感も高まってきました。

毎年の会報を見ますと、「マスターズ大会は、日々のトレーニングを行う最高の目標となる。素晴らしい柔道家との良き出逢いがある。同年代との真剣勝負、そして試合終了後の達成感は何ものにも代え難い。体の続く限り柔道を続けたい。」など熱い胸の炎を語る会員が沢山います。これらの人達の気持

ちを十分に受け止めマスターズ柔道の普及・振興のため、当協会の拡充・発展に努めていきたいと存じます。

皆様の熱いご支援、ご協力をお願い申し上げます。

昨年の活動状況及び本年の活動計画と課題について報告します。

1、平成二十九年の活動状況

(1) 執行部の活動状況

一月の「代表理事会」において、当協会の事業及び決算報告等を行いました。以後、毎月、二金会の開催前に「執行部会」を開き、協会運営方針等について議論し、当協会の円滑・適正な運営を図っています。

浅田三男専務理事を加えた執行部の最大の業務は、マスターズ大会の開催・運営ですが、森本薫事務局長を筆頭に事務局が一体となって、申込み受付（全柔連登録の確認作業等を含む）・申込金の受理、関係団体への根回し、プログラム作成をはじめ広告企業へのお願いや傷害保険契約等大変に幅広い業務を処理してきました。

(2) 広報活動の強化

広報委員会の西久保博信委員長を中心に会報第十六号を発行すると共に、当協会や会員の活

動状況を早期に確実に広報するためHPを活用し、マスターズ大会の案内・結果報告等に加えて、全国各地で活躍している会員の様子を掲載し、広報活動を強化してきました。

(3) 二金会の活動状況

毎月第二金曜日に講道館の大道場を借りて形や乱取の稽古会を開催しています。平均年齢六十五歳前後、毎回三〇人位が参加。外国人とも一緒に稽古を行い、国際交流を図っています。最近では、若い会員に加えて、HPを見ての遠方からの会員も参加して大変盛況となっています。稽古後は、懇親会で近況報告や柔道談義に花を咲かせ、最後はマスターズ柔道流の「一本」で絞めています。

(4) 二〇一七年日本ベテランズ国際柔道大会(第十四回日本マスターズ柔道大会)

六月十七日(土)、十八日(日)の二日間、和歌山県白浜町に於いて外国人三十二人を含む男女約六〇〇人の選手により試合(個人・団体)及び形競技が行われ、熱戦が繰り広げられました。開会式では、全柔連松井勲大会副委員長、三橋英夫会長の挨拶の後、白浜町井瀬誠町長から歓迎の祝辞が述べられました。

八十歳以上の出場者に対する功労者表彰、十回・五回出場者の表彰後、千葉県の石邑勇氏による力強い選手宣誓が行われ、熱戦の火蓋が切られました。

○本大会の特徴・注目点 ア、大会の申込み期限

大会が六月開催のことから、全柔連登録が申込期限内にできるか心配されましたが、未登録者と緊密に連絡を取りながら、何とか間に合わせる事ができました。

また、導入二年目の「申込期限の二段階制」も定着してきており、早期申込を促すことができました。

イ、大会初参加者

和歌山県の開催のため地元はもとより、大阪、兵庫から例年になく、多くの選手が参加し、地方大会始まって以来の六〇〇人超となりました。また、大会の初参加者が全体の三〇%を超えるという大変意義深い大会となりました。

ウ、高齢者の出場

大会に出場した七十〜七十九歳が六十三人、八十歳以上は十一人と年々高齢者の参加が増えています。特に、最高年齢九十二歳の美濃岡清三郎氏の柔道着姿は、後に続く若い選手達に感動と勇気を与えてくれました。

た。

エ、形競技と団体戦

形競技には、七つの形に内外から四十組が挑戦し、「投の形」と「柔の形」では香港チームが優勝を飾りました。

男子団体戦は、ニュージーランドを含む三十一チームが参加し、それぞれ郷土の応援を背に、体重無差別の激しい戦いを繰り広げた結果、各年代に強力メンバーを揃えた「修心会(監督片桐清司氏)」が、決勝で「札幌柔道連盟」を破り、初優勝を決めました。

女子は、四チームが参加し、「愛知デラックス」が、昨年の覇者「鹿児島」を代表戦の末、破って優勝しました。

オ、協会主催の懇親会

大会初日、役員、選手、同伴家族等百七十人が参加した恒例の懇親会がホテルシーモアで開催され、和歌山県の仁坂吉伸知事や全柔連の中里壮也専務理事等の挨拶の後、ホテルの用意した地元の山海の珍味に舌鼓を打ちながら、久しぶりの再会を喜び、国際交流を図りました。

余興では、白浜町湯崎獅子舞や日本舞踊、詩吟、NZチームのウォークライ等が披露され、参加者から惜しみない拍手が贈られました。

最後に、全員で記念写真を撮り、翌日の個人戦の健闘と来年の再会を約してお開きとなりました。

(5) 第九回世界ベテランズ国際柔道大会

九月三十日〜十月三日の間、イタリア、サルデーニャ島オルビアで開催されたIJF主催の「第九回世界ベテランズ国際柔道大会」に日本から十九人が参加しました。慣れない長旅・時差そして減量と戦いながら金4、銀2、銅3個のメダル獲得という素晴らしい成績を残して無事帰国しました。

(6) 全国柔道高段者大会と総会

四月二十八日講道館で開催された全国柔道高段者大会には、全国から多くの会員が出場、日頃鍛えたマスターズ柔道の成果を如何なく発揮し、立派な成績を残しました。大会後、神田の学士会館において、多数の会員が参加して当協会の総会を開催し、二十八年度の決算、二十九年度の事業計画・予算等が報告されました。総会後は、試合を振り返り、マスターズ和歌山大会での再会を約束して親睦と交流が図られました。

(7) 夏季柔道研修会(勝浦合宿)

八月二十七日(日)、二十八

日(月)の二日間、日本武道館研修センター(千葉県勝浦)で夏季柔道研修会が開催されました。例年のように、五十〜七十歳のベテラン勢が中心でしたが、子や孫の中学生達も加わり、受身・打込み・寝技・乱取等に滝のような汗を流しました。夕食は、房総半島の美しい夕陽を見ながら、バーベキュー。肉や新鮮な魚・野菜に舌鼓を打ちながら柔道談義と世代間交流を深めました。

(8) ラオス・カンボジア遠征活動

三月二日〜九日、ラオス柔道連盟からの要請により同国の「武道演武会」にマスターズ会員の有志、内藤純副会長以下十名が参加しました。演武会では、日本・ラオス政府高官の見守る中、「護身術」と「五の形」を披露し、集まった沢山の観衆から万雷の拍手をもらいました。

遠征中、ナショナルチームにも稽古方法等の指導を行った外、カンボジアでは、アンコール柔道場において、経験の浅い若者達に受身や打込み方法等を指導し、国際柔道交流を図りました。

(9) 横浜遠征合同稽古

二月十一日(土)、毎年恒例となっている横浜遠征合同稽古

が神奈川県立武道館（横浜市）で開催されました。関東周辺のマスターズ会員、土曜柔道会、丸の内柔道倶楽部、大木塾、横浜税関等の老若男女、これにイギリス、フランス、ドイツ等海外の柔道家も加わり、総勢百人超。最も寒い時期ではありませんが、寝技、打込み、乱取等の一時間半の稽古でビッシヨリ汗をかきました。

稽古後は、横浜中華街に繰り出し、本場中国料理を食べながら交流の輪を広げました。

（10）全日本柔道形競技大会

十月二十二日、講道館で開催された全日本柔道形競技大会に何組かのマスターズ会員が参加しました。古式の形で清家春夫・小池健三組が準優勝、五つの形では、大木恒夫・阿部雅人組が第三位に入り、優秀な成績を納めました。

2、平成三十年度の活動計画と課題

（1）「二〇一八年日本ベテランズ国際柔道大会（第十五回日本マスターズ柔道大会）」（愛媛県松山市）開催

マスターズ柔道大会も今年で節目の十五回目を迎えます。五月二十六・二十七日開催は、本大会が始まって以来、最も早い

開催時期なので、全柔連登録の遅延が懸念されますが、同連盟と緊密に連絡を取りながら開催の諸準備に万全を期すと共に、大会を通じてマスターズ柔道の普及・振興に努めたい。

昨年の和歌山大会は、地方開催の最高参加人数を記録しましたが、今年の大会は、地元愛媛県を含む四国を中心に九州・中国地方の参加者を増やして、更にこれを超える参加人数にしたい。特に、初めての参加者を増やして、地方大会の参加記録を更新したい。

また、昨年の女子参加者は、団体戦、個人戦、形をそれぞれ合わせても全部で三十名程度であり、男子に比較して参加者が増えていない。比較的怪我の少ない形を中心に参加者を増やしていきたい。

（2）広報活動の強化

広報委員会を中心に、柔道関係誌やHP等に、大会情報や時宜を得た会員の活躍振り・トピックス等を掲載し、広報活動を強化し、会員の増加に繋げていきたい。また、昇段委託団体等には、当協会の活動状況等を会報や「日本マスターズ柔道協会十二年の歩み」等を積極的に活用し広報していきたい。一月下旬に第十七号の会報を

発行し、愛媛県大会への参加を呼びかけるため、会報と共に大会要項及び申込用紙等を送付する予定である。

（3）第十回世界ベテランズ国際柔道大会への参加

第十回世界ベテランズ国際柔道大会は、開催時期・場所等は未定であるが、ツアーを組んで参加したい。

（4）夏季柔道研修会の実施

例年八月末の千葉県勝浦の研修会には、会員の外、会員の子供や孫が参加して楽しい柔道研修会となっている。今年は、勝浦に限らず他地区での合宿も視野に入れて検討したい。良いアイデアがあれば事務局にお寄せ下さい。

（5）合同稽古会の開催

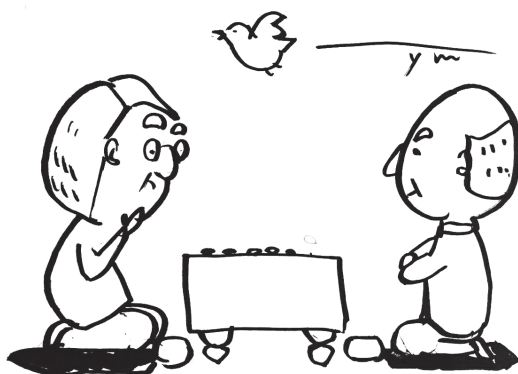
毎年、二月に神奈川県立武道館（横浜市）で開催される合同稽古会に参加し、丸の内柔道倶楽部や横浜土曜会等柔道団体との稽古、交流を図る。また、その他の都市との合同稽古会も検討したい。

（6）全日本柔道形競技大会への参加

全日本柔道形競技大会に多くの会員が出場し、毎年、上位入賞を果たすなど活躍していることから、本年も大会出場を目指す会員を応援していきたい。

終わりに

本年も、「礼節を重んじ、健康に留意して、怪我をしない、させない柔道」をモットーに、楽しく全国の会員や外国人との柔道交流を図りながら生涯柔道を継続し、日本最古の「道後温泉」（愛媛県松山市）でお会いしましょう。



二〇一八年

役員人事

会長

三橋 英夫

副会長

内藤 純

西久保 博信

吉成 隆杜

専務理事

浅田 三男

事務局長

森本 薫

事務局次長

玉田 誠

田倉 幸夫

原 優

【会計担当】

幹事

石井 成明

役田 英穂

〓 事務局便り 〓

日本マスターズ柔道協会
平成30年総会及び懇親会への
ご案内

本年の総会は毎年四月二十八日に講道館で開催される全国柔道高段者大会当日の午後五時より、講道館より地下鉄二駅の神保町の学士会館で開催されます。総会の後、懇親会もありますので、全国より高段者大会に参加された会員同志のさらに熱い柔道の絆が結ばれることを期待します。

この高段者大会の参加者はもちろんのこと、段位には関係なく日本マスターズ柔道協会員及びその他の柔道愛好家も是非とも奮ってご参加ください。

尚、参加ご希望の方は会報と同封の申込用紙をご利用下さい。
また、当日飛び入りご参加も歓迎いたします。

日時：四月二十八日

(全国高段者大会の日)
十七時～十九時迄

会場：学士会館・東京都千代田区神田錦町3-28

TEL 03-3292-5936

※講道館からは都営地下鉄「三田線の春日駅」より二駅「神保町駅」下車A9番出口より徒歩一分です。

会費：六〇〇円

申込先：FAX送付先

050-3730-0846

(日本マスターズ柔道協会事務局)に



2018年日本ベテランズ国際柔道大会 (第15回日本マスターズ柔道大会)

- 【期 日】平成30年5月26日(土) 28日(日)
- 【会 場】愛媛武道館 (〒790-0948 愛媛県松山市市坪西町551)
- 【試合日程】5月26日(土) 午前：形競技／午後：団体戦(男女)
5月27日(日) 終日：個人戦／年齢・体重別(男女)
- 【参加資格】30歳以上の全柔連・日本マスターズ柔道協会登録すみの日本人及び在留外国人男女
- 【参加費】試合の部：個人戦・団体戦の2種目以内6,000円、形競技の部1種目4,000円・2種目6,000円
- 【申込方法】Web・FAXまたは郵送
- 【申込受付期間】1次申込み：平成30年2月5日(月)～4月9日(月)
2次申込み：平成30年4月10日(火)～4月20日(金)
- 申込・問合せ・資料請求先
日本マスターズ柔道協会事務局 (Tel: 090-4022-5992 Fax: 050-3730-0846)
(詳細は当協会のホームページで大会要綱をご覧ください (<http://jmja.jp/>))



連勝街道を進む

五連覇のあと七連覇、氣力の続く限り精進したい

愛知県 上田 一美

(M6・73 kg)



私がマスターズ大会に出場したのは、第二回埼玉大会（四十四歳）からでした。実業団の現役を退いてから、この大会があることを知り、後輩と出場し優勝することが出来ました。これを機会に練習に励み、トレーニングを重ねました。その成果もあり次の第三回も優勝し第六回まで五連覇を達成することが出来ました。

しかし、第七回の新潟大会は初戦で敗退。しばらくショックで立ち直れませんでした。これを機にもうやめてしまおうかと思いましたが、次の大会の開催地は地元千葉だったので、もう

一度優勝するぞという気持ちでより一層の練習に励みました。高校の同級生や先輩、後輩、家族の激励もあり、地元で優勝することができました。背負投げ、体落とし、巴投げ、寝技を得意として次の第九回も優勝し、第十四回まで七連覇を達成。十二勝一敗です。

会社の後輩たちにはとても感謝しています。練習相手になっただけからこの記録があると思います。試合に出る以上、勝ちにこだわってきました。もちろん相手がいるから試合が出来る。敬う気持ちは忘れたことはありません。一年に一回の大会に向けて自分が努力し、練習をつむことで心技体を良好に維持できています。

年をとる度に体が硬くなり、ちよつとした怪我也も治りにくくなっていると思います。ですが一つの目標に向けて努力する姿勢が大切だと思います。また、選手同士の対面や高校の後輩との出会い、色々な地方に行けるのもモチベーションの維持になつています。

今回の大会の一カ月前、走り込みから右膝を痛めてしまい、棄権しようかどうかしようかと迷っていました。しかし、今まで稽古してきたことが水の泡に

なると悩んだ末、テーピングを巻き、出場、優勝することができました。

マスターズに向けて事前準備や体重コントロールをすることで、背筋がしっかりし、闘争心をかきたて稽古することの大切さを痛感しています。体力、氣力が続く限り、日々精進したいと思います。ますますのマスターズ大会のご発展をお祈りいたします。

~~~~~

5連覇達成―多くの人の力が私を成長させた

長崎県 中山 直秀

(M3・66 kg)



和歌山県白浜町で二〇一七年日本ベテランズ柔道大会が行われました。この大会でM2・M3合わせて、66 kgで五年連続の優勝することが出来ました。毎年、精神面・身体面を見つ

める為に柔道に取り組んでいきます。今回は、不摂生により、15 kgの減量の為、通常より早い、三カ月前より減量・トレーニングを開始しました。柔道の技術面においては、新しく出来る事を増やすようにし、柔道のスタイルを少しずつ、年代に合うように自分の身体と相談しながら取り組んでいます。特に今回は、体の重心の位置を考えること、連続技を一つ増やす事の二つを目標にしました。また、今回の大会では、中学時代の友人が試合前のアップの打ち込み相手に大阪から駆けつけてくれました。お陰で、試合に向けてスムーズに身体を調整することが出来ました。友人とは二十年ぶりに道着で組みましたが、柔道を通して出来た絆を強く感じ、大会に出場して良かったと思える瞬間でもありました。この大会に出場するにあたり、沢山の方々の力をお借りしました。まず、長崎の平戸少年柔道クラブで基本的な練習をさせてもらい、近隣の道場へも練習に行かせて頂きました。快く練習を受け入れて頂き、心より感謝申し上げます。そして、妻には、一日三食と練習前の食事など、ス

タミナが落ちないように、食事のメニューを組んでもらいまし

た。この大会を通して、年齢を重ねるごとに、食事の大切さを感じるようになりました。他にも沢山の方々に助けて頂きました。試合の結果は嬉しいですが、試合にたどり着くまでの過程全てが私を成長させてくれる財産だと感じました。

第十五回大会の愛媛でもみんなの力をお借りして、試合にたどり着くことが出来るように、日々努力していきたいと思っています。

~~~~~

人生、意地を張れば面白い

―五度目の優勝で

兵庫県 片山 幸昌

(M4・100 kg)



「かつて、武道家と言われる方達は、今私が迎えようとしている晩年期という急速に体力の衰える時に、一体なにを思い、どのように鍛錬し、精進していたのだろう。」ということを深

く考えさせられる年頃になりました。

近年出場した大会を顧みると、一昨年の大会では、心臓の機能に異常を起こす疾患を抱えた状態での参戦となり、決勝戦を前に発作が起きるというアクシデントにみまわれてしまった。それによるパニックで過呼吸と貧血に襲われ、立ち上がることも出来ず、絶望感を露わに横たわっていると、付き添いに来ていた息子が「お父さん、救護班を呼びに行こうか」と声を掛けてくれたことで、「このまま負けるわけにはいかん」と己に活を入れて、気力を取り戻すことができ、覚悟を決めて試合に挑んだのでした。

翌年の大会では、大会一ヶ月前に、心臓の手術を終えて出場しました。担当医からは、「治療薬の影響で、ちょっとした衝撃でも出血する恐れがあり、出血すると血が止まらなくなりますよ。」と警告され、ホラー映画の流血シーンを思い浮かべながら（笑）、出場を決断したのでした。

今大会では、大会の三ヶ月前に痛めた半月板損傷の痛みが消えず、膝を曲げるだけで激痛が走る最悪な状態での参戦でした。周囲の方からは、試合を辞

退するよう優しい言葉を掛けてもらったにも係わらず、膝が曲がらないように、テーピングでガチガチに固めて出場を強行しました。

気は若いつもりでいても、歳を取れば自然と体は思い通りにいかなくなる。まさに「よる年波には勝てぬ」ということわざ通りである。しかし、そんな言葉に甘んじて、自分に優しく穏やかな人生を歩む気持ちはさらさらしない。たとえ、途中で倒れたとしても、もとより己が望んだこと、命に替えても夢を実現させることに大きな意味があると思う。

この度、幸いにも四年連続五度目の優勝を果たすことができたとにより、これまでの柔道キャリアを踏まえて、これから修業の糧とし、今後の大会に向け、さらに思い入れ一際強く、意地を貫き、意地をぶつけたいと考えています。

最後に、日本マスターズ柔道協会役員の先生方並びに、大会役員皆様様の日々のご尽力に深く感謝し、紙上をお借りして心よりお礼申し上げます。

強い父親の姿を見せたい

―五連勝達成

愛媛県 川野 英二
(M2・60 kg)



私が日本マスターズ大会に初めて出場したきっかけは、大学時代の先輩から「第十回大会はアジアマスターズを兼ねる大会だから、出場して、一緒にアジア一位になろうよ!」というお誘いからでした。当時三十五歳でした。

思い返せば、国体の出場を逃し、県体重別も連覇が途切れた三十一歳に第一線を退き、稽古は続けてはいましたが、これからは柔道と接する機会はなくなるのかな?と思っていた時期でもありました。丁度そのタイミングで、先輩からのお誘いもあり

りマスターズ大会に出場するようになりました。第十四回和歌山大会で五回目の出場となり、毎年苦しい試合ばかりでしたが、M2・60 kgで、五年連続で優勝することができました。さて、二〇一八年は愛媛県松山市で第十五回マスターズ大会が開催されます。二〇一七年に開催された愛媛国体の影響もあって、愛媛県の沢山の先生方からマスターズはどんな大会?等々の質問がありました。愛媛大会では多数の愛媛県の先生方が出場するかもしれません。個人的にそれも楽しみです。

現在、仕事をしながら、朝は自分のトレーニングをし、夜は週三回、柔道会で幼児から中学生までの五十人ほどの子供たちの指導をしています。

指導には四苦八苦していますが、子供たちの成長する姿を見るのがとても楽しみです。柔道会でも事務局をし、毎週のよう

に子供たちの試合があり、監督として引率しています。マスターズ大会に出場する前に思っていた状況とは正反対で、現在、どっぷり柔道漬けです。(笑)

我が家の末っ子の幼児も今年度から柔道を始め、子供四人全員が柔道をしています。家の動きが柔道を軸に回っています。

これからも強い父親の姿が見せられるように頑張っていきたいと思っています。

最後に、日本マスターズ柔道協会の今後益々の発展と会員皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

日本マスターズ柔道大会の魅力と感謝―個人戦で三連覇

茨城県 羽生 利彦
(M8・73 kg)



私が日本マスターズ柔道大会に参加したのは、二〇一三年で、教え子から日本マスターズ柔道大会が講道館で開催されるのを知られ、団体戦にだけ六十歳代の副将で参加し、結果は「第五位」で、大変悔しい思いをしました。

二〇一四年には団体戦に六十歳代の副将として、個人戦には始めて六五歳〜六九歳のM8のカテゴリーでエントリーし、初優勝し「金メダル」を頂きました。

そのことから日本マスターズを柔道における新たな魅力として感じる様になりました。

二〇一五年は第十二回日本マスターズ柔道大会が佐賀県嬉野市の体育館で開催され、個人戦で「二連覇」し、二〇一六年には講道館で実施する為、団体戦・個人戦として、「形の部」でも「古式の形」を演武し三種目に出場しました。個人戦では優勝し「三連覇」することが出来ました。

二〇一七年の第十四回は和歌山県白浜で開催されました。団体戦の出場の為に心配しながらの減量で、計量にパスはしたものの、当日は辛い試合で、チームの選手や松井先生や中西審判長には心配をお掛けいたしました。団体戦試合終了後は前夜祭があり、食事でも出来また緊張もなく、翌日の個人戦は、一回戦がシードで、二回戦は「内股」で、三回戦は「小外刈り」で、決勝戦は「背負い投げ」でと、全て一本勝ちで「四連覇」となりました。

その後、関東高段者柔道大会に八段で参加をしましたが、他に参加する人がなく、試合をすることが出来ませんでした。また、全国高段者柔道大会には三十六回続けて出場しています。一回だけの試合ですので物

足りなく感じています。今は、日本マスターズ柔道大会に出場できることに刺激を受け、試合の出来る喜びに感謝をしています。

現在は、マスターズ大会を一年間の最大目標として位置づけておりますが、そのためには自分自身を鍛えていく必要があります。生涯体育の一つとして現役柔道を目指して身体の続く限り日々研鑽を重ね、筑波大学に行つて柔道練習をやったり、全日本強化選手の練習会にも参加をしております。この大会への出場では私は充実した意義ある今日を迎えることが出来ています。

これからは、微力ではありますが日本マスターズ柔道協会の発展に努力したいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。有難うございました。

~~~~~  
マスターズ大会に感謝  
~~~~~

—— 昨年に続き二連勝

徳島県 板東 篤司
(M7・73 kg)

今年、第十四回和歌山大会の

M7・73 kg級において、前年に引き続き優勝することができました。

私は五十歳を前にして体力の衰えを痛感したことがあり、健康のためにも一念発起、柔道とランニングを再開し、柔道大会・マラソン大会への出場を目標としました。すると、翌年、母校の先輩から第三回岡山大会の団体戦への出場命令があり、初めて本大会に個人戦とともに出場しました。その後、仕事の関係等で本大会への出場は叶いませんでしたが、身体と相談しつつ試行錯誤を繰り返しながら、柔道・ランニングを続けてきました。そして定年退職となり、念願叶って第十三回講道館大会に十年振りに出場することができました。

十年前に比べますと、参加者は倍増して活気に溢れ、大会運営も洗練されたものとなっており、驚きとともに感動いたしました。これも日本マスターズ協会等大会関係者皆様のご努力の賜物であると敬服し、感謝申し上げます。次第であります。

残念ながら徳島県でも柔道人口の減少が著しく、練習場所・相手の確保に苦労しているところではありますが、少しでも柔道の発展にお役に立てることがありますよう、今後も精進を続けてまいりたいと考えております。

なお、講道館大会では、久しぶりに妻や娘と旅行を楽しみ、和歌山大会では、知人の地元柔道関係者が応援に駆け付けてくれ、旧交を温めるとともに、試合後には熊野古道、熊野本宮大社（写真）等を観光案内していただきました。これも本大会参加のお蔭と感謝しております。

最後になりましたが、柔道愛好者にとつてかけがえのないものとなっております本大会並びに日本マスターズ柔道協会の益々のご発展をお祈りしております。



初参加の人々

友に乾杯 柔道に感謝

島根県 花本 茂人
(五の形で優勝)

二〇一七年日本ベテランズ国際柔道大会和歌山大会では、地元役員の皆様そして大会事務局の皆様方には大変に思い出の多い大会を創っていただき、誠にありがとうございました。円滑な大会運営と、大会参加者全員が「精力善用」「自他共栄」の柔道精神を大いに発揮し、真摯に試合に望む姿に初出場の私は感動いたしました。

本大会には柔道の技術や人格が優れた人しか出られないものと認識していたので、島根県からも毎年何名も参加している状況ですが、自分自身の出場については修行不足のためと敬遠しておりました。が、一年前になるでしようか、和歌山県柔道連盟の藤村利行君から「来年は和歌山でマスターズ大会があるの」で「形」の試合に出よう」と誘いの電話があり思案することとなりました。彼とは大学の同期

生で同じ合宿所で四年間、寝食を共にした友であり、何でも相談出来る親友でもありました。お互い大学を出てからは、それぞれ地元で教職に就き今年三月、無事に定年退職を迎えた節目でもあったことも合わせ、もう一度若かりし時代にタイムスリップしてみるのが一考かな、と重たい腰を上げた次第でした。大会まではそれぞれ地元で練習を積み、二人がやっと一緒に練習出来たのは試合前日のことでした。意気揚々と練習を始めたまでは良かったのですが、月日の流れに気ままに身を任せ過ぎてしまったのか学生時代の体型で無いことに気付き、四苦八苦の連続でした。暫く汗をかきながら練習をしていくと、それでも学生時代の阿吽の呼吸が蘇り、翌日の演武をするのが楽しみになっていました。

大会当日は藤村君への応援が多く、とても心強くそして大きな力を得ました。また、緊張感よりも友と出来る喜びに浸っていたので、肅々と演武をするのが出来ました。無事演武が終了し、最終得点が発表されるまでの時間が長く感じ一番緊張した時でした。そして結果は「優勝」という人生最大の喜びをいただくことが出来ました。

幸運という言葉が今回は当てはまるかもしれませんが、運を呼び込んでくれたのは友であり、今日まで健康な身体を維持させてくれた柔道に感謝しています。これを機会に精進を重ね、大会の出場を重ねていきたいと思っています。

最後に役員の皆様方の御健康と御多幸、そして益々の大会の発展と、更なる柔道の振興並びに普及をお祈りして大会参加の感想といたします。

六十歳からの柔道

和歌山県 藤村利行
(五の形で優勝)



左が筆者、右が花本茂さん

二〇一七年日本ベテランズ国際柔道大会(第十四回日本マスターズ柔道大会)が国内はもとより、世界各地より柔道を愛する皆様をお迎えし、白浜町で開催することができました。地方開催の大会としては最も大勢の参加となり、日本マスターズ柔

道協会並びに全日本柔道連盟の御指導、御協力に対し心から厚くお礼申し上げます。

本大会の開催は、一昨年の「紀の国わかやま国体」時に全柔連大会事業委員会松井勲委員長から打診されました。早速、県柔連を上げて開催地の検討に係り、温泉施設として全国的に有名な白浜町を会場に決定し、準備に取りかかりました。大会は和歌山県、白浜町、白浜町観光協会との支援のもと、特に白浜町長井潤誠様の絶大な御配慮を頂き、国際大会に適応できる畳を購入いただきました。

私は本年四月に三十八年間の教員生活を終え、その節目として退職後「六十歳からの柔道」を目標として大会に臨むこととしました。全国高段者大会へは十五回の出場を数え、二十回出場を目ざすべく、在職中の日々の稽古は出勤前に行い、さらにエアロバイクやサーキットトレーニング等を中心とし、主に心肺機能を高めました。マスターズ大会の出場を決めた頃より、更なるモチベーションを上げ、当時の勤務先であった県下でも強豪校の箕島高校で、職務の合間を見つけ高校生と乱取り稽古に励みました。

できることなら「団体戦」形

「個人戦」とフルエントリーでさればと、仲間に声をかけチーム作りをしました。

昨年の島根インターハイで花本茂人八段・花本隼四段父子で「五の形」が披露され、うらやましくも柔道家として感動。その夜に酒を酌み交わし旧友とのマスターズ大会「形」の出場を決めました。花本八段は大学の同級生で全日本柔道選手権大会の出場も果たしており、現在は島根県柔道連盟理事長の要職に在ります。

「五の形」は、全日本柔道形競技大会で近畿地区代表として二度の出場経験があるものの、稽古不足は否めないため、藤戸優治七段(和歌山県警察師範)と稽古を重ねました。その様子を見て本館の女子指導者の高井亜矢子参段、畠中真衣式段も影響され「投げの形」へ参加することとなり、一層の輪が広がりました。

「団体戦」は年齢別ということで、警察官・公務員・会社員の方々に幅広く声をかけ、大將には柔道連盟会長谷口久雄氏の参加もあり、まさに柔道を愛する者たちで構成し、稽古は各々の環境を考えての調整をしました。チーム名の「振勇義館」は、平成五年、財団法人和

歌山県柔道連盟の拠点の柔道会館として建設と同時に開館。指導者は阪口宗平四段(エコ・マネジメント社長)、新家 貢四段(県柔道連盟事務局長)、阪部貴行五段(県教育庁スポーツ課班長)、高橋雄哉五段(国士館大学OB)、本年度より高井洋平五段(和歌山県職員)も加わり、そして前述の高井亜矢子参段(東海大学OG)、畠中真衣式段(柔道整復師)の諸先生の指導のもと小・中学生はもとより高校生・一般と幅広く修行をしています。

大会前日、島根県より旧友を迎え会場に向かいました。いよいよ選手を迎え入れる準備も整えられた会場では、久しぶりの緊張感を味わいました。その日は鮮やかな紅色と黄色で、まさに国際大会にふさわしく、早速柔道着に着替え旧友と最終確認を行いました。私は常々「学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない」というロジェ・ルメール前サッカーフランス代表監督の言葉に共感しています。また、試合前の緊張感は生徒を指導するうえで大切なことであり、この緊張感を生徒と共有しておくことが大切だと思っています。

当日の演技順は五番目。「五

の形」の一番目は清家春夫八段と小池健三六段の演技で、その高度な演技を参考に見取り稽古をしました。いよいよ我々の演技となり旧友との間合い、息も合い精一杯の力を発揮できました。演技後の無言の握手。久々の達成感を味わうことができた。結果は最高の評価を頂き優勝することができました。

「団体戦」では一回戦は対ニュージールランド三対一。二回戦の対柔錬会三対二。三回戦では対修心会一対二の惜敗。所期の目標であるベスト四には届かなかったものの、全員で互いを讃えました。

今回、マスターズ柔道大会に初めて参加させていただき、改めて柔道のすばらしさを実感しました。そして、旧友との栄冠を糧にこれからも一層精進したいと思っています。

「柔道」で知り合った多くの
人達に再会

大阪府 植田 佳徳
(M1・73kg)

第十四回日本マスターズ柔道

大会が和歌山県の白浜であることを知り、勤務先の上司、先輩、同級生と共に挑戦を決め、出場しました。

楽しく柔道ができ、怪我をしないことを目標として出場しましたが、実は全員が金メダルを狙っているという意識の高さで臨んでいました。大会前は現役時代と同様の『勝てるかな』という不安の気持ちを隠しきれない状態であり、見ている側も緊張してしまふほどでしたが、結果的に自分は、M1・73kg級に出場し、金メダルを獲得しました。

このマスターズ柔道大会に出場して感じたことは、年齢を重ねていくことにより、一緒に大会に出場する事が少なくなっていく中、今回の大会は大変貴重に思いました。勤務先でも大会はありますが、同じ年代の一緒に戦ってきた選手達が次々と引退していく為、寂しいのが本当の気持ちです。

自分の対戦より、大学時代の先輩、後輩、同級生、地元と同級生、後輩の柔道が気になり、久しぶりに観戦し、今でも柔道していることを嬉しく思いました。

最後に、今回のマスターズ大会に出場したことで、柔道競技を通じて知り合った多くの人たちにまた会えたことに感謝しております。ありがとうございました。



前列右端

はじめてのマスターズ

兵庫県 片山 雄一朗
(M1・60kg)



右端が筆者

今大会が和歌山県で開催されることを知りマスターズ柔道大会に初めて参加しました。私がマスターズ柔道大会を知ったのは、昨年度の東京大会に高校や大学の先輩方が出場されたのをフェイスブックで見かけてからです。先輩が一生懸命に、尚且つ楽しそうに柔道をしている姿が羨ましく思い、今大会の参

加を決めました。マスターズ柔道大会は階級別・年齢別に区分され、年齢の近い同階級の選手と試合をする。そのため、試合に向けての稽古や体重調整など三十歳を超えて久しぶりに体感することも、なんだかうれしく思えました。私は兵庫県で中学校の柔道部を指導しています。子供たちには常日頃から「負けてもいいので思いきった柔道を、試合をする様に」と言っています。しかし、試合場の畳の上に立つとそう上手くいかないというのを、数年ぶりに試合に出ることによって懐かしさとともに再確認できるいい機会になりました。試合の緊張・恐怖・集中力・我慢、勝つ喜び、負ける悔しさなど普段生活しているだけでは味わえない体験を、これから子供たちと気持ちを分かち合えるように、またどの様な心で挑めばいい試合ができるのかを私も試合に出て考えていきたいと思っています。マスターズ柔道大会への次なる思いは、団体戦への出場です。それぞれの年代でメンバーを五人集めるのは至難するとは思いますが、可能になれば試合の勝ち負けよりもすばらしい経験になるような気がします。なにより楽しそうです。私はこれからも、柔

第十四回マスターズ柔道大会
(白浜大会) について

和歌山県 黒田善治
(M6・100kg)



左から二番目が筆者

地元開催ということで、初めてマスターズ大会に出場させていただきました。

小学三年生で柔道を始め、高校・大学では団体戦で全国大会に出場させていただきましたが、これといった成績を残すこともできず、柔道整復師の道に進むことになりました。

柔道も続けることになり、開業後は業界団体の柔道大会に三十年出場してきました。それというのも、柔道を始めた道場の師故藤村茂先生（八段）が日頃よく言っておられた「とにかく柔道を続けていれば、いつかは同年代の世界チャンピオンに勝てる時がくるかもしれない。」というお言葉が耳に残っていたからです。

柔道を生涯競技と考えておられ、ご自身も実践されておられました。私自身もなんとか業界の大会に出場を続けていたところ、五十歳を超えてから年代別の近畿大会で勝たせていただき、全国大会では団体優勝をさせていただきました。そして今回、地元和歌山（白浜）でのマスターズ大会に出場させていただき、地元の会場・応援団、運も味方してくれたおかげで勝たせていただきました。

今後は、師匠の言葉を忘れず、生涯スポーツとしての柔道を続け、柔道の競技人口増加のために小・中学生の指導にも力を注ぎたいと考えております。

初出場オール一本勝ち

大阪府 田上賢三
(M2・81kg)



真中が筆者

十一歳から始めた柔道。現役を引退し、特に目標も無い私に、妻からこんな試合あるよと言われて知ったのがマスターズ柔道大会です。職場の仲間も参加すると言うことで参加を決意しました。

さて、試合出場を決意するまでの自分は、座右の銘でもある『筋肉はアクセサリ』をモットーに筋トレばかりしていて、柔道着に袖を通さないのが当たり前で、柔道着を握らずパーベールばかり握っていました。結局は筋トレと柔道の両立が難しく、しんどく辛い柔道の稽古か

ら逃げていました。しかし、試合出場が決まった以上そうは言ってもらえませんが、なんたつて私はパフォーマーだからです。応援してくれる人に最高のパフォーマンスを見せる、記録よりも記憶です。どれだけ試合会場で記憶に残るパフォーマンスをして、応援してくれるファン（仲間）に喜んでもらうか、もはや意識の高さはEXILE並みのパフォーマーです。

でも、久々の柔道は本当に辛かったです、こんなにも体が言うことを聞いてくれないとは思いませんでした。やはり社会人になり仕事と家庭を両立するなかで、いかに自分で時間作り稽古に費やすか、これが難しい。また、マスターズ選手の永遠の課題ではないでしょうか。

試合結果は、お陰さまでどうかオール一本勝ちで初出場初優勝をすることが出来ました。これで柔道をしている子供たちにも威厳が保てそうです。そして、好きな柔道を好きなように続けさせてもらった妻には感謝です。

最後になりますが、マスターズに出場する歳になるまで、どうして柔道を二十年以上も続けることができたのだろうか。勝てば喜び負ければ悔しい。でも、

それだけじゃ続ける事ができなかったはずだ。

じゃあ何だと思えます？

それは応援に来てくれる家族、仲間に最高のパフォーマンスを見せて、喜んでもらう、これが最高に気持ちいい。

なんたつて私はパフォーマーですから。

第十四回 日本マスターズ柔道
白浜大会に出場して

兵庫県 堀内 真
(M2・100kg超)



平成二十九年六月、私は、日本マスターズ柔道大会に初めて参加させていただきました以前から、三十歳以上の柔道家を対象とした大会があることを存じており、また、大学の同級生が既に四回出場しておりましたので、興味を持って出場機会をうかがっていたところ、今回、関

西で開催されるに当たり、同じく関西在住の大学の先輩と誘い合わせて出場することとなりました。出場した階級はM2・100キロ超級で、M2では最年長であることに一抹の不安を覚えながら畳に上がりましたが、なんとか三試合を戦い抜くことができました。優勝することができました。試合となれば、やはり勝ちたい気持ちの方が湧きあがりますが、このマスターズ大会の会場では、どの選手も、勝っても負けても、充実した表情で畳から降りてくる姿が印象的であり、私自身も、優勝できたうれしさもありましたが、それ以上に、これまで試合から遠ざかっていた分、同年代の選手と思い切り試合ができた喜びの方が大きく感じられました。

現在の私は、実業団選手を退いた後、転職し、勤務の傍ら職場の若い職員に指導をする日々を送っております。現在の職場は、武道が必須で、職員は柔道家が剣道部に入部しなければなりません。若い職員の大半は、社会人になってから習い始めた者ですので、指導には工夫が求められます。これまで柔道に縁のなかった人に、いかに興味を持たせて長く続けてもらえるか、さらには、強くなつて試合

で勝ちたい、初段をとりたいたい等の動機づけができるかということとを心掛けておりますが、これも、柔道人口の拡大を図り、生涯スポーツとしての魅力を伝えるという、マスターズ柔道の精神に通ずるものがあるのではと考えております。

私は、今回の大会出場で、マスターズ大会の魅力を知ることができ、今後も継続して出場していきたいと思っておりますが、次回大会は、地元である愛媛県で開催されるとのこと、懐かしい方々にもお会いできるのではないかと、非常に楽しみにしております。

最後になりましたが、日本マスターズ柔道協会の益々の御発展と、次回大会が盛大に開催されますことを、心からお祈り申し上げます。

股関節脱臼を克服

―初参加で優勝

神奈川県 松本 勇治
(M3・90 kg)

私は以前より日本ベテランズ選手権大会に興味があり、いつ

かは出場したいと思っていました。今回念願が叶い、M3・90 kg級にエントリーしました。

そして出場するにあたってテーマを二つもって臨みました。まず一つ目は家族旅行です。昨年まで全日本女子のコーチをしていたため、なかなか家族で遠出をするチャンスがありませんでした。二つ目は子どもに柔道をしている姿を見せたいと考えたことです。現役のころはまだ幼稚園であまり覚えていないようだったので、中学生になった多感な今、何かを感じてもらいたいと思いました。

試合は午後からだったので前中は白浜を訪れ、つかの間の観光気分を味わいました。美しい景色に家族も私も癒されました。

午後になり試合モードに気持ちを切り替え、ウォーミングアップがてら打ち込みをしていたところ、あるうにか股関節を脱臼してしまいました。あまりの痛みに悶絶しつつ、思わず「棄権」の選択肢が頭をよぎりましたが、結果はどうであれ我が子に父としての背中を見せたいと思い直し、気持ちだけでも相手に負けたくないと心に決めて畳に上がりました。

予想通り初戦から厳しい戦い

が続く、なんとか決勝にはたどり着いたものの、相手はほとんど一本で豪快に勝ち上がってきた韓国の選手でした。指導二を先行されて後がなくなった残り五〇秒、ワンチャンスのところバ投げが決まり、優勝することができました。

実は怪我の直後より、打込相手だった坂本周作選手をはじめとして、ドクターやさまざまな方の力を借りて、試合直前まで適切な処置をしていただいたからこその結果でした。特に坂本選手にはご自身の試合もあるにもかかわらず、コーチボックスにも入ってもらい、声をかけていただき、本当に感謝しています。多くの方々のご協力があったからこそ優勝だったと思うと、やはり出場してよかったと実感しています。もし機会があれば、今度は万全の態勢でチャレンジしたいと思っています。



五十八歳で柔道入門

―マスターズ初参加で

銀メダル獲得―

大阪府 高田 茂
(M8・73 kg)



左が筆者

私は、二〇一〇年の二月、大阪講道館に入門。大橋恵先生（七段）と出会い、稽古を付けて頂きました。その人柄に惹かれ柔道を続ける事が出来ました。三ヶ月後の講道館月例試合で初段。そして六十歳で三段。六十三歳で参段に昇段する事が出来ました。

マスターズの大会が和歌山で開催されると知り、初めて参加させて頂きました。関西での開催でもあり、顔なじみも多く、余り緊張もせず試合に臨むことが出来ました。結果M8・73 kg級で、銀メダルを獲得する事が出来ました。（私にとっては予想外の出来事でした。）当初大

会には同行するけど、応援はしないと云っていた家内も、動画と表彰式の写真を撮ってくれました。

主な稽古場所は講道館と千里体育館です。大橋先生は現在八十九歳。今でも寝技を中心に稽古をつけておられます。先日も横捨て身技を実演されたのに驚きました。又講道館で励ましてくださる西岡弘先生（九段）は、現在九十歳を超えており、私はその道着姿の立派な先生を尊敬しています。私服もおしゃれです。

遅すぎた入門ではありましたが、総合空手道の経歴も役に立っているのかなと思っています。マスターズ柔道大会が有って良かったです。六十五歳の今でも稽古が楽しいですし、発見や気付きがたくさんあって、まだ強くなれるような気がします。大橋先生に紹介して頂いた佐野先生。我が同志岡島さん。松田さん。そして稽古に付き合ってくれた皆さんに感謝申し上げます。

来年五月に博多から愛媛に応援に来てくれる旧友夫婦との再会も楽しみです。五年後の目標は羽生先生との再戦です。マスターズで優勝することが、私の夢の一つになりました。

初出場で銀メダル、大会に感謝

大阪府 田邊 智彦
(M3・66kg)



左端が筆者

私は、今回の「日本マスターズ柔道大会」に初出場させていただきました。きっかけは、明武館田邊道場の指導者から「マスターズ柔道大会と一緒に参加してみませんか?!」との誘いがあったからです。

明武館田邊道場は創立九十四年を迎えます。明武館田邊道場は、私の曾祖父が岐阜県にて天神眞楊流柔術を皆伝し、大阪府池田市の地にて池田警察署勤務中、村の方々から農閑期に農舎の提供により、これを道場に仕立てて『明武館』と称し、地域青少年に天神眞楊流柔術と柔

道を受けたことが元々です。この歴史ある道場にて、私は主幹と少年部の監督を任されています。しかし、私は輝かしい柔道戦歴があるわけではなく、ただ柔道が好きで、子供たちに柔道指導している状態でした。私としても、子供たちに目標を持たせ指導している以上、私も目標を持って柔道ライフを送ろうと考え、指導者の誘いに賛同し、マスターズ柔道大会に出場することを決心しました。

これまで高段者大会には出場しましたが、マスターズ柔道大会のようなトーナメント方式の大会に出場することは学生以来でもありません。なかなか練習量も増やすことが出来ない状態で大会を迎えることになりました。大会当日では、当道場指導者の川合先生が激戦を繰り広げ、見事に準優勝されました。私は大変緊張しました。ですが、思った以上に身体が動き、得意技の背負投げでも一本を取ることでできました。決勝戦では、完全な力負けでしたが、最後まで戦うことが出来たことは、私にとって大変価値ある試合になりました。また、準優勝できたことで、自信にもなりました。マスターズ柔道大会に参加して、当道場から出場した三人の

指導者全員が入賞を果たすことが出来たことは、当道場として大変喜ばしいことであります。また、指導している子供たちの励みにもなったように感じます。このような機会を与えてくださった大会運営者の方々、一緒に大会に参加した指導者のみんな、そして、応援してくれた練習生のみんなに感謝申し上げます。次回のマスターズ柔道大会にも出場できるように、今後も目標を持って精進していきたいと思います。

「勝ち負けだけではない

「楽しさ」を発見

和歌山県 松原 猛真
(M2・81kg)



左端が筆者

和歌山で日本マスターズ大会が開催されると知り、先輩の誘いもあって出場することを決めました。人間目標があると変わるもので、気がつくマスターズ

ズ大会のために生活の仕方を変えていました。毎日トレーニングというのは、絶対に続かない自信があったので、週四日でやろうと決め、その日は雨が降ろうが風が吹こうが深夜であろうが行いました。仕事が休みの日には、某大学や県警に単身出稽古に行き、兎に角たくさん投げられました。また毎日毎日、稽古がない日も一人打ち込みをし続けました。さらに経験になるだろうと思い、海外マスターズ大会遠征を計画していました。

毎日少しずつ積み重ねた結果なのか、海外遠征は、全試合一本勝ちで優勝しました。社会人柔道を始めて、十年目にして初めての経験でした。帰国してから、日本マスターズ大会でも一本決着の試合ができるようになろう。そんな目標を立てました。

ところが、大会一週間前に稽古で足首の骨を亜脱臼するという怪我を負いました。それでも、大会当日は運良く、決勝まで勝ち進むことが出来、第二位となりました。敗れはしたものの後悔は無く、晴れやかな、穏やかな、不思議な気持ちでした。

試合後の表彰式の写真は、素晴らしい笑顔をしていました。実は、試合で負けて笑えたのは

これが生まれて初めてでした。うまく言えませんが、勝負を超えたエネルギーの交換を無心に楽しむことが出来たのです。こういう柔道の楽しみ方もあるのだなという考えさせられました。ちなみに戦績は四戦して一本勝ちが二回。判定勝ちが一回。決勝は見事に一本負け。僕の目標は、達成されたのでした。

僕は日本マスターズ大会から、勝負の中で、勝負だけではない「楽しさ」を見つけたことが出来ました。今さらですが、形を一から学び直しています。正に目から鱗。新しい発見がいっぱいとても楽しいです。

「いつか柔道の様々な「楽しさ」を世界に発信できる柔道家になる。」恥ずかしながら三十五歳にしてそんな夢も出来ました。僕の「柔道の深さ、楽しさを知る旅」はまだまだ始まったばかりです。



ダライ・ラマ14世と柔道・Ⅲ

日本マスターズ協会 副会長
西久保博信（神奈川）

インドのデリー市から北へ526km

ダラムサラというヒマラヤ山脈の麓にある小さな街は世界中に名を知られている。何故ならば此処にダライ・ラマ14世と二万有余のチベット人が亡命生活を送っているからである。成田山新勝寺を筆頭にした宗教関係者以外でダライ・ラマ14世に表立った支援をした最初の日本人に総合警備保障㈱の創立者、故村井順氏が挙げられる。一九七五年頃からダライ・ラマ14世が来日する度にドライバー付きの防弾警護車両を提供し、京都・奈良の寺社仏閣をご案内したり、滞在中のお世話をしたのだが、その際総合警備保障㈱柔道部主将として法王の随行員（セキユリテイ）に柔道や護身術の手解きをしたのが、法王と私の御縁の始まりである。村井順氏が亡くなられた後、法王の御支援を引き継がれたのがテイケイ株式会社社長（現会長）高花豊氏で、一九八九年当時同社の教育担当役員だった私と、極真空手の師範（現清武会代表）西田幸夫氏に法王警護員に対する柔道・空手指導の機会を与えて下さった。これが一回目のダラムサラへの出向である。

二〇〇七年十二月十四日、十回目のダラムサラ行きに出発。今回の同行者は高橋秀明参段（現五段、明治大学政治経済学部四年）で、彼

は全日本二部学生柔道大会団体・個人重量級優勝、東日本二部学生柔道大会団体・個人優勝（共に三連覇）、全国青年大会団体優勝・個人90kg級二連覇等の輝かしい戦績を持っている。

成田を正午に発ち、インデラガンジー空港着十八時、日本とデリーは約三時間半の時差があるので十時間頃の飛行時間だ。過去九回のダラムサラ行きはデリーから十三時間は覚悟の車両移動であったが、今回は初めてインド国内便でバンジャブ州アマリトサルまで飛び、翌十五日午前〇時三十分空港着、近くのホテルで仮眠、五時間の車両移動でダラムサラ入りを計画した。ところがこの便は出発が遅れ、翌十五日午前二時半頃の到着となり、出向かいのセーリン・ドルジェ氏と深夜ドライブで朝七時ダラムサラ到着となった（インドの国内便は二度と利用するまい）

今回の宿舎「SNOW LION」で旅装を解き、午後二時昼食、二時から打合せ、警護員の勤務交代時間

に合わせ、午前の部は十時～十一時三十分、午後の部は十五時～十六時三十分の一日二回、護身用具である警戒棒操法・格闘術は四日目の十九日午前午後各四十分、計八十分を充てることにした。

かくして第二日目の指導、「正面に礼、先生に礼、お互いに礼」発音はおかしくても日本語で号令を掛けさせる。ストレッチを主体にたっぷり準備体操、身体を動かした時軽い頭痛と息切れを感じるのは標高1400～1500mの高地であるからか？続いて手幅を広く、狭く、折り上げの順で三種の腕立て伏せ、全員インド陸軍最精鋭チベット人部隊の選抜者だけに、基礎体力は申し分ない。前転、後転、開脚前転、開脚後転、エビ。伏臥前進をやってみせ、やらせる。

後受け身、横受け身を長座、中腰、立位とステップアップ、一日目にして前回り受け身（右のみ）を六動作に分解して指導した。手応えがあるので熱が入り、気がつけば予定時間を二十分もオーバー、時間超過を詫びて正座で終わりの礼、第一日目が終わる。

十六日、犬の遠吠えで目が覚める。時計を見ると午前四時三十分。インドでは牛の次に犬が大切にされているので、首輪のない犬が多数闊

歩しているのだが、毎朝この遠吠えには悩まされた。この犬が声も出せずに一晩二～三匹食い殺される…、冬場には人里近くに降りて来るというヒマラヤ豹の話を思い出した。

七時三十分、バター茶、トゥッパ（麵）、ゆで卵、チベット風パンの朝食。十時、本日から午前の稽古は固め技主体、午後は投げ技主体のメニューに基づき、袈裟固め、上四方固め、横四方固めの正しい抑え方、続いて逃れ方、締め括りは受取交代で三十秒間抑えきるか、逃げるかの攻防を行った。午前の稽古終了後食堂にて会食、ダラムサラ滞在中の昼食は総てお世話になった。

よくインドのカレーは辛いでしょう？と聞かれるがカレーその他の添え物が辛いのである。食後、寺院法王邸の周りを一周、起伏のある散歩コースになつており世界各国の巡礼者と写真に納まつたりして交歓した。

十五時から投技、十一月十六日は膝車、支釣込足、十七日は出足払、大外刈、十八日は大内刈、一本背負投、体落、二十日は指導した技の総括、乱取りを行った。総ての乱取りは、指導した技しか使えないこととした。

基礎体力があつて教えた通りに

実行する素直さと積極性を併せ持った受講生に恵まれ、誠に指導者冥利に尽きる六日間であった。午前の稽古終了時、法王警護員の総隊長テンジン・タクラ（ダライ・ラマ14世の長兄の息子）氏が「カタール」と呼ばれる3m50cm位の純絹の白布（チベット儀礼用）を二人の首に掛けてくれた。白の「カタール」は誠意、心からの敬意を表すとの事で嬉しかった。十一月二十日夕、ダラムサラ発デリー行き夜行バスに乗る私達を勤務シフトを代表して四人の警護員が見送りに来てくれた。夕闇の中で皆の気持ちですと「カタール」を受けながら高橋君が涙声で「嬉しいですね！」と呟いた。老いも若きもこの感動は忘れまい。



私の柔道

「PDCA」で「精力を尽す」

監事 役田英穂（埼玉県）



2017年東京都高段者大会
技術優秀賞受賞（代表）

二つの異質な言葉を重ねて見出しとしましたが、団体あるいは個人での柔道活動の一つのスタイルを表わしていると思っています。後の方の「精力を尽（盡す）」は、柔道愛好家ならよく御存知の昇段証書の文言です。私流には、「精一杯努力を重ねる」と解釈しています。

最初の「PDCA」は、工場勤務現役中によく多用した用語です。内容は、P = Plan（計画）、D = Do（実行）、C = Check（評価）、A = Act（改善）のことで、PDCAのサイクルを回すということは、企業はじめ各種組織でも広く取り入れられている一般的な管理・運営手法です。この考え方が柔道の活動において

も有効であると考えています。

マスターズ柔道協会の監事となつて三年が過ぎ、この間に正副会長はじめ、専務理事・事務局長・次長など、多くの役員の交代がありました。しかし協会の運営に停滞も減速もなく、着実に前進しています。役員さん個々の能力・御努力は勿論ですが、協会の運営手法が確立されているからだと思っています。即ち、前年実績を評価・改善した新活動計画・予算を代表理事会で決定し、執行部が月毎に実行・記録・報告し、監査・承認を経て次年度へ、というPDCAサイクルが確実に回っています。また毎月の執行部会では、より良き活動、より一層の発展を目指して、「精力を尽した」熱心な議論がなされています。

私個人も同じ考えで生涯柔道を楽しんでいます。年金生活に入つてスケジュール管理を手帳からパソコンに切り替え、柔道主体に半年先までの予定をまず打ち込みます。各月・週初めには口伝会・浜町・丸の内倶楽部の稽古や、月例の二金会・都柔連合同稽古を確認し、全てに年間皆勤を目指し精力を尽しています。日課である早朝散歩とラジオ体操、帰宅後のトレーニングもその一部です。稽古や試合

の結果は毎日PCの「柔道日誌」に反省点とともに記録しています。これが自分流「PDCA」であり、「精力を尽す」ですが、残念ながら加齢とともに柔道の質の改善・上達にはなかなか繋がらないのが悩みです。

第二の人生と柔道

事務局長 森本 薫（神奈川県）



六十歳になって、はい終わり、とばかり、会社を定年となつた。当時は高齢者雇用安定法が六十五歳までの雇用を謳っていなかった時代である。

誰が定年などを定めたのか知らぬが、実のところ、困った。まだマンシヨンのローンはたっぷり残っているし、子供もまだ学生だ。高齢者何とか協会や人材銀行、ハローワーク等訪ねまわった。しかし、なかなか自

分にピタッとくる仕事はなかった。自分は人との輪を作るのが好きだし、人に会うのが苦にならないので、営業向きかと思い、営業職も当たってみたが、たいがい年齢制限に引っかかった。

あきらめかけたところに高齢者専門の某人材派遣会社の営業職の募集があり、これとばかり、申し込んだら運よく合格。この時ほどうれしかったことはない。しかしその会社も卒業し、現在も人材に関連する仕事に従事しているが、いかに多くのシニア世代の方々が外面はともかく、内心では働く場を求めているかを実感する。ただ、シニア世代にとって仕事をしたくても、体力的に、あるいは精神的に自分になじむ仕事がなかなか見つからないのが実情のようである。

話は柔道にもどるが、柔道のおかげでいろんな方との輪が広がり、自分の人生を豊かにしてくれているのも事実である。柔道をやっている方がまるで第二の人生の過ごし方がまるで違ったものになったかもしれない。六十代後半にさしかかり、稽古の回数は少なくなったが、これからの人生、柔道着を着ないで柔道を取るのでもいいのではないかと思う。もちろん、実践の部

分は残し、いざ鎌倉というときにいつでも立ち上がれるようマスターズにも出場続けるつもりだ。

七十歳の柔道

愛知県 加古 若子（F9・53kg）



2017年世界形選手権大会「柔の形」で優勝した石田姉妹と私

私は、和歌山の「第十四回日本マスターズ柔道大会」に七人のグループで参加しました。半分旅行気分、会場近くの海から上がる日の出を、きれいに写真に撮ることが出来ました。大会前夜は、翌日の試合のことも忘れて宴会に参加、楽しい時間がアットという間に過ぎてしまいました。それでも一日目の形、二日目の個人戦と、若い

人達の助けて、怪我もなく終えることが出来ました。七十歳になったら大会参加は無理かなと思っていたところ、やろうという気持ちがあれば、出来ることがわかり、来年も精進して参加しようと夢が膨らんでいます。

また、世界形選手権大会（イタリア・サルディーニャ島）に石田姉妹組が「柔の形」で出場し、優勝したことは本当に嬉しかった。私も応援に駆けつけた甲斐がありました。石田姉妹組みはその一週間後の全日本柔道形競技大会でも優勝しました。石田組に続いて岩田・内田組も昨年の大会で「柔の形」四位と頑張っているのも心強いところです。

私が通う「半田少年柔道教室」は、来年四十周年を迎えますが、私が柔道を続けていられ、マスターズ大会に出られるのも、この教室のお陰だと思っています。

稽古相手は、小学生高学年の子供達です。子供達相手になんとか立ち動くことが出来ます。しかし、試合でも同じように動きたいのですが、頭と体がついていきません。それでも来年は一步前進した試合がしたいと思っています。

私の年代の選手はほとんどい

ないなかで、昨年は二人いた相手も、今年は一人になってしまいました、「お願いだから来年も試合をやりましょう」と約束を交わしました。

まずは元気で暮らすこと、怪我をしないことだと思っています。高学年相手の稽古は、受け身が体に伝わるのですが、まだまだ未熟だからだと反省しています。来年も無理なく大会に参加できるように、若い人達の協力のもと、柔道教室に通いたいと思っています。また、これから柔道を愛し続けてくれる若い人達を見守っていききたいと思っています。

来年の松山大会参加に向けて、精進を続けるつもりです。

南紀白浜での悟り

東京都 久保雅昭
(M8・90 kg)



右側が筆者

二〇一五年嬉野大会の折、お世話になった宿は『入船荘』。源泉かけ流しで、疲労回復には効果抜群だった。二階のベランダは山に面していた。団体戦当日、その山の端から昇る朝日を拝むと、ふとある悟りが開けた。

『柔道は強いだけではダメだ。昇段と共に、人間的な魅力も増さなければならぬ。俺は今後も、柔らかに、優しい、しなやかな柔道を目指すぞ！』

南紀白浜で得た悟り。それは懇親会場『ホテル シーモア』へ向かう途中、広大な太平洋に沈む夕陽を見た時だ。その悟りがどういうものであったかは、一番最後に記すとして、今回の一番の想い出は、日本マスターズ柔道協会副会長 吉成 隆杜先生とのドライブであった。

団体戦前日の金曜日、時間があつたので、串本まで行き、昼食。本州最南端の潮岬灯台を見学して、更に那智の滝へ。落差133m！高さ、水量ともに日本一！吉成先生は、那智の滝に優勝を祈願され、M8・81kg級で 見事優勝！決勝までの四回戦を全て一本勝であった。

私も当然優勝を祈願したが、結果は二戦二敗の三位。人間は

やはり、神仏から応援される存在でなければならぬ。今後私は、日頃の行いを改めねばなるまい。

吉成先生との初対戦は、二十五年前の平成五年十月。以来、何度も何度も死闘を繰り広げたが、勝ち目は無かった。そんなライバルの吉成先生と、まさかドライブをご一緒すると。人様とのご縁、柔道が取り持つご縁に、感謝したい。

さて、南紀白浜で得た悟りとは！それは、「人間の煩惱は無くならないものだ」というもの。そんなことは、釈迦が二千五百年前に悟ったことで、今さら実感するのもお恥ずかしい次第。

お後がよろしいようで。

第十四回白浜大会で

念願の初優勝

香川県 宮脇 政美
(M9・73 kg)

私と柔道の関わりは、小学校一年生の時、現在会長を拝命している坂出市柔道協会への入門から始まりました。これまでの

柔道人生において、特に目立った成績はありませんが、大切な師との出会いがあり、柔道の魅力に惹かれ、また良き仲間を支えられ、ここまで続けることが出来ました。

大会への挑戦は、第三回岡山県大会からです。師匠である来田武先生に勧められ、同朋の中山章司先生、北村岳伸先生と共に四人での参加を楽しみに出場を続けています。

普段の稽古は、朝五時に起床し、近くの聖通寺山の階段を登り、腕立て、スクワット等の筋力トレーニングを毎日二時間。道場では、若い選手を相手に乱取りを行っています。

これまでの大会成績は、第九回山口県大会での準優勝が最高位でした。今大会の準決勝では、山口県大会の決勝戦で抑え込まれ完敗した相手との再戦でしたが、僅差で雪辱を果たすことができました。続く決勝戦も接戦の末、勝利。柔道を始めて六十年あまり、私にとって柔道人生初の大きなタイトルを手に入れた瞬間でした。

大会は、試合だけでなく懇親会等を通して、様々な柔道家との出会い、交流が広がっています。同年代で日々鍛錬しているライバル達、更に努力を続けて



左から2人目が筆者

おられる諸先輩の方々の存在に
触発され、挑戦を続けています。

また、道場の子供達も私にと
って大きな存在です。全国各地で
開催される大会の結果報告を
子供達や保護者に行っています。
今回は金メダルを披露する
ことができ、子供達は私以上に
喜んでくれました。それが今日
も量に上がる原動力となってい
ます。大会への出場は、柔道を
指導するだけでなく、挑戦を続
けること、継続することの大切
さを手本として示せたのではな
いかと思います。

来年、二〇一八年大会は、愛
媛県で開催が予定されていま
す。地元四国での開催です。連
覇という新たな目標に向かって、
これからも挑戦を続けて行
きたいと思っています。

柔道と登山と私

山形県 高宮 和弘

(M4・90 kg)



私が柔道を始めたのは昭和
五十三年で、小学校四年生の時
でした。最初は練習が嫌いであ
るほどでしたが、試合で結果を
残せるようになって柔道が楽し
くなり、稽古にも熱が入るよう
になりました。その後、楯岡中
学・日大山形高校・東北学院大
学とそれなりの結果を残し、
平成五年に母校の楯岡中学校
で外部コーチになったのが指導
者としてのスタートであり、現
在は村山柔道スポーツ少年団
及び葉山中学校で指導をして
います。近年、指導した選手を
含む村山市出身の選手が、小
学・中学・高校・大学・警察等
で全国大会に出場し、多くが活
躍していることが大変喜ばし
いことであります。

「私も負けていけない」と思
い、全日本マスターズ大会に
初出場したのが第七回の新潟
大会でした。学生の頃は八十六
級だったのですが、新潟大会に
は百五級の体重を九十キロに落
として出場しました。この大会
で入賞することはできませんでした
が、第十回の講道館では百超
級で三位、第十一・十三回の講
道館では百超級で三位入賞する
ことができました。

今回の白浜大会では、まだ入
賞していない九十級に再挑戦
し、三位入賞することができま
した。この結果、三階級で三位
（三階級制覇なら凄い）となり、
出場した大会は四大会連続で銅
メダルを獲得することができま
した。今後、何年先になるかわ
かりませんが、出場者が多く激
戦の八十一級にも挑戦し、笑
い話になります。四階級目の
銅メダルを目指します。

話は変わりますが、最近の私
の趣味は登山であり、暇があ
ればいろいろな山に登っていま
す。私の住んでいる山形県村山
市は山に囲まれた環境にあり、
登山はマスターズ大会に出場す
るためのトレーニングになって
います。その甲斐もあって、体
重は九十キロ以下を常にキープ
しています。登山は、山頂に登っ

た時の達成感と一期一会の自然
との出会いが素晴らしいと思
います。また、足腰の強化や持
力の向上等に効果がありません
で、柔道選手のトレーニングに
は効果的だと思います。将来的
には、山形百名山登頂（現在
五十山登頂）や日本百名山登頂
（現在三山登頂）も目指してい
たいと思っています。

最後になりますが、これまで
大会の運営に携わってきた方々
に深く感謝するとともに、日本
マスターズ協会の方へ、今後の
発展と皆様方のご健康、今後の
更なるご活躍を心よりお祈り
いたします。

「生涯現役！」を目指す

静岡県 佐々木 健

(M4・73 kg)



私は、静岡県に所在する駐屯
地に勤務している自衛官です。
現在、駐屯地柔道部の部長とし
て勤務時間外を利用して部員と
共に練習で汗を流す日々を送っ
ております。

振り返れば、私が東北から静
岡に転勤して来た八年前には、
柔道部員が三名しかおらず、そ
れから懸命に様々な部署の隊員
に声をかけ勧誘活動に苦労した
ことを覚えています。今では、
十八歳から五十歳の幅広い年齢
層の部員約四十名が所属してお
り、学生時代のような時間をか
けた稽古はなかなか出来ないも
の、限られた時間で皆楽しく
研究心を持って稽古に励んで
おります。

こうやって楽しく稽古を重ね
ていく中で、なんといっても欠
かせないのが大会に出場する
ことです。これまで年に一度行
われる自衛隊の全国大会を目標
に活動してきましたが、自衛隊
柔道部の代表として部員全員常
に目標を持って頑張ってもら
いたいという思いから県内の大会
規模の大きさに関わらず積極的
に参加させていただき団結を深
めて参りました。そんな中、四
年前に柔道関係の知人から「日
本マスターズ柔道大会という試
合があるから出場してみなよ。」

と勧められ、第十一回講道館大会に私も含め部員八名で個人戦に参加させて頂きました。

初めてとなったマスターズの個人戦は、年齢、体重別で行われる為、勝ち負けの結果は別として同年代の選手と真剣勝負が出来るとともに、交流が広がりとても魅力ある大会でした。また、八十歳を超える選手が真剣に試合に臨む姿を拝見し感銘を受けました。参加した部員も久しぶりの緊張感と達成感で「また来年も出場したい。」と言葉を残してくれ、以来、自衛隊柔道部の恒例となり毎年参加しております。

私は、現在、小・中学生の指導に加え自衛隊の稽古等忙しい毎日を送っておりますが、大変で苦痛だと思ったことは一度もありません。それは、五歳から始めた柔道を心から愛しているということと、マスターズ柔道大会に目標を定めて頑張れるからです。あの高齢の選手の試合で感銘を受けたことを決して忘れることなく、「生涯現役」の言葉を胸に今後も努力していきたいと思えます。

~~~~~  
M9での優勝目指して頑張るぞ！

大阪府 持永光久  
(M8・60kg)



マスターズ柔道大会への参加は白浜大会が二回目です。そもそも柔道を再会したのも、六年前(二〇一一年)に三度目の東京赴任になった折、大学柔道部の後輩である南さん(丸の内柔道倶楽部)に誘われたのが切っ掛けでした。技量の乏しい私を、なぜ?と思いましたが、長年の水泳で若干体力に自信がありましたことと、「受け身だけでも」との南氏の甘い言葉に?押されて、学生時代以来の稽古を始めた次第です。

縁あって三菱養和会思斉館で稽古をさせて頂きました。勿論皆様実力者揃いでしたが、初心者程度の私をご指導くださり、稽古相手にもなっていました。少し上達したように思えました。稽古後の先輩諸兄との喫茶・談論も稽古とセットで楽し

いひと時でした。

しかし、二〇一五年三月をもちまして勤務先を任期満了で退職いたし、居を構えていました大阪へ戻ることになりました。三年間ご指導くださった先輩諸兄、また慣れ親しんだ思斉館との別れは後ろ髪がひかれる思いでした。

大阪へ戻り一か月経って、講道館大阪国際柔道センターを訪れ、稽古を再開いたしました。ここで思斉館とはまた違った個性の先輩諸兄に出会い、教えを乞い週に二回程度、時期により三回程度稽古をいたしています。稽古をしない日には水泳と水中トレーニングで体力増強と体調維持に努めています。

私がマスターズに出場したのは、東京を離れて会えていない皆様に、マスターズ会場で会えるのではとの思いがあったからです。郷里佐賀の嬉野大会では初戦敗退でしたが、再会できた喜びが残りました。佐賀市、城南中学の同期生で佐賀県柔道協会会長の中島様とも半世紀ぶりに会えました。二〇一六年の大会は稽古中の骨折でエントリー後不参加となりましたが、白浜大会では銅メダルを頂きました。次の松山大会は仕事の思い出の場所でもあります。M9で

優勝を目指して稽古に励み続けます。

~~~~~  
ニュージーランド柔道紀行

―南島タニディン市道場と北島オークランド市リトルウッド氏の道場を訪問して―

埼玉県 勝呂 孝
(M10・60kg)

平成二十九年三月初旬、NZ南北両島の柔道の友人を久しぶりに訪ねて、彼らの活躍ぶりを見聞した。彼らを通して同国の柔道の現状をお伝えしたい。

まず、南島南東端のタニディン市(人口十二万の地方都市)の道場である。道場主はロスオリンピック時のNZナショナルコーチを務めた古い友人である。PCで連絡を取りあっていたが、実に三十四年ぶりの再会である。彼は私より二歳年上の七十九歳、ずいぶん太ったが、私はガリガリにやせた。お互いに年齢だけは重ねあった。

彼が率いる柔道クラブは以前のところから二、三度引越している。稽古は週に三日ほどで、

青少年中心(約三十名)の日と、一般の部(約十名)の日、そしてその混合日があり、私が行ったのは混合日で、オタゴ大学の学生も来ていた。子供を車で送りがてら来ている母親たちも、終始笑顔で見学していたのが印象的であった。

道場の正面には、日の丸とNZの国旗が掲げられ、参加者は皆、礼法を守り、きちんとつけられている様子であった。私は道場主に頼まれて嘉納師範の写真を贈呈した。今頃は正面に飾られ、稽古を見下ろしていることだろう。

次は、北島オークランド市のリックリトルウッド氏の道場である。リック氏はミュンヘンオリンピックのNZ柔道選手で、奥様は日本人、我らマスターズ柔道の地方理事でもある。年に数回、奥様同伴で広い太平洋を南北に往復している。

市内の中心街、クイーンズストリートの一 corner に武道店も開き、さらにその隣に「たぬき」と日本語で書かれた居酒屋を二軒経営している。その他、市内に数件のビルディングも所有するかなりのやり手である。

自宅に道場を構え、週三日ほど稽古を行っている。門弟多数、NZ人と結婚した日本女性もい

て青少年を指導している。道場の壁にはメダルや賞状がずらりと掛かり、指導員たちは彼の武道店で働くほか、閉店後「たぬき」でも勤務している。稽古の終わった日にこの居酒屋で楽しい歓迎会を開いてもらった。行き帰りは皆、車で移動する。酒を飲んでいて大丈夫かと心配したが、この国の飲酒基準は日本よりかなり緩やかだそうである。

余談だが、ここオークランドでもダニエインでも、日本風の看板を掛けた寿司屋、ラーメン店などがあり、日本ビールのポスターや招き猫などが飾ってあるが、その大半は中国人か韓国人の経営である。入ってゆくとすぐ韓国人と間違われた。店のおばさんが「オイシイデスカ？」と日本語で聞いた。町の案内表示は英語と中国語で表記され、中国語の会話が飛び交っていた。

さて、この国の柔道状況である。どちらの道場でも青少年が喜々として練習に励んでおり、その姿は心休まるものである。ただし事情通によると、この国には青少年のうちに多くのスポーツを体験させる方針があった。柔道もその一環にすぎないそう。彼らがそのまま柔道を

続けるとは限らず、全体として柔道人口は減っていると言う。

私は現役時代に何度かオークランドを訪問した。当時は道場がいくつもあり、リック氏と会ったのもその頃であった。

今回昔の友人の消息を尋ねると、「彼は柔道をやめた。誰それはどこそこへ引越し、あの道場はもう無い。」など寂しい返事が返ってきた。リック氏の武道具の一番の売れ筋は、柔道着でなくテコンドウ着だそう。なればこそ、現在この国で柔道を指導している彼らの一層の奮闘を期待したい。

幸いなことに両道場では優秀な後継ぎが育ち、きちんとした指導をしている様子を垣間見ることができた。また、彼らはすでに何度か来日し、講道館ほかでも稽古を積んでいる。来る東京オリンピックでは、山下新会長の下での日本柔道が世界に放映され、一層の理解が深まることを望んでやまない。

〈追伸〉

五月、ダニエイン市の道場からメールが入った。「あの道場の若い門下生が豪州との国際大会で優勝し、金メダルを獲得した」との嬉しいニュースであった。同市は大会のオークランドに比べればほんの片田舎、そ

の中の小さな町道場の快挙である。
「よくやった、おめでとう」と返信した。



四十歳から柔道スタイルを変えて開眼

東京都 小室宏二
(M3・73kg)

昨年に引き続き、今年もベテランズに参加させて頂きました。今回は日本大会に加えイタリアで行われた世界大会にも挑戦しました。早いもので私も四十歳となり今年からM3・73kg級での挑戦です。これまで大きな怪我や病気もなく、柔道をやってこれたのは本当に幸せ者だと思いつつ、それでもやはり体力的な変化は日々感じるようになってきました。そこで新たな柔道スタイルを開拓すべく寝技一辺倒の柔道から「背負投」を試みるようにしました。現役時代は沢山打ち込みをしたものの全く効かず、途中で掛けること自体を止めてしまった経緯があります。また最近の稽古や試合ではとにかく「身体力を抜く」ことを意識するようにしました。所詮ベテランズ世代はスタミナが無い、力を入れてはすぐにバテてしまう。組み手に拘らず、力み過ぎず、理に適った柔道を目指しました。これが思いのほか効果があり日本大会三

試合、世界大会五試合全てで一本勝ちを収めることができ、そしてその半分が投技（背負投3、小内刈1）での決着でした。寝技一辺倒だった私の柔道人生で、これほど投技が決まった年は他にありません。まさか四十歳にして柔道スタイルが本当に変わるとは思いませんでした。もしかしたら自分の理想とする柔道が最もできたのが今年だったかもしれません。とはいえ既に来年に向け、新たな稽古を始めていることは言うまでもありません。



技術解説（1）袖車絞（足を絡まれた体勢から）

小室 宏二

私の固技技術の根幹となっているのは高専柔道です。記念すべき第1回目は恩師である平田鼎師範直伝であり、私自身が最も得意とする「袖車絞」をご紹介します。

①袖車絞1

袖車絞を施しやすい機会といえば足を絡まれた状況、相手は足を絡み防御態勢に入る

②袖車絞2

相手の頭を抱える

③袖車絞3

左手四指で袖の内側を引っかけるようにして握る（注：反則ではない）

袖口は必ず手首の位置を保持する

④袖車絞4

相手の耳後ろあたりから手刀を差し入れ隙間がないようにする

左右手首の位置が、相手の首中央部分にあるようにする

⑤袖車絞（手の形）

手刀をスライドして隙間を埋め、袖を握った手を捻るようにして絞める

襟を握った絞技と同様に捻る

⑥～⑧袖車絞（頭と肩を使う）

相手が顎を引いて防御した場合

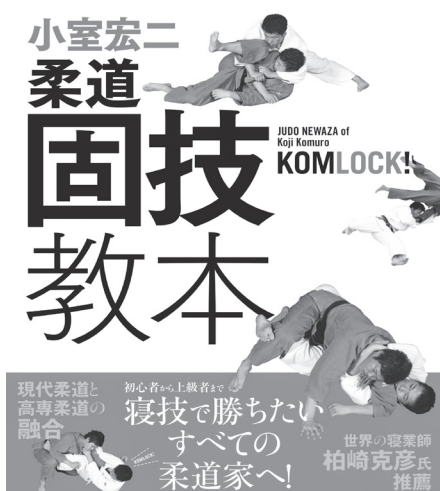
頭で相手の頭を側方に押す

肩で相手の顎を押し上げる

ちょうど人工呼吸の気道確保のような体勢となり空いたスペースに手刀を差し入れる

詳しくは拙著で紹介しています。

寝技で勝ちたい全ての柔道家へ「柔道固技教本」（晋遊舎）¥2200（外税）



フランスで学んだ柔道

神奈川県 齋院 志津子

《始まりは、ある日》

柔道を始めて、三十二年の歳月が流れている。夫の柔道仲間に誘われ、すぐに稽古に出かけた。三十五歳になってはいたが、やってみる、まずは挑戦の気持ちだった。受身を習い、腕は痣だらけ、でも乱取りは面白かった。投げられても投げられても、立ち上がる。がむしゃらにぶつかっては、投げられ続けた。強い高段者に挑むのが好きだ。

性格的には、好きなことは熱心だが、嫌いなことはしたがいらない。どれだけ迷惑をかけたことだろう。受身があまり好きではない。初段を取ってから、その大切さに気付く。今では、受身を嫌がる子に「そうだよね」とうなずき、「だけど大事だよ。怪我をしないようにやってみようね」と諭している。

柔道に「形」があることを知ったのも初段の試験を受けた時だった。この「形」も、初めは戸惑うばかりで試験後に続けることはなかった。五十歳の時に、製本の勉強のためにひとり、スイスに三ヶ月間滞在した。柔道は女子四段になっていた。その時、スイ

スの「形合宿」に招待された。なんとその時、白帯の人たちも七つある「形」をすべて学んでいた。私は愕然として、スイス人に教えてもらった。日本で柔道をしている人間として、ひとつくらいは、きちんと教えられるようにならなくては恥ずかしいと思った。

この気持ちで始めたのが「柔の形」だった。目標を立て、やる気を起こさなくてはならない。県大会、関東、全国大会へと進む。相手の松永さんは、辛抱強く育ててくれた。二〇〇四年ウィーンで行われた、第六回世界マスターズ柔道選手権大会への参加もあった。初めての世界で「君が代」を表彰台で聞いた。稽古の日々を想い浮かべ、しみじみという曲だと思えた。全国大会は四度の挑戦。しかし、優勝の一步手前に留まった。十数年この「柔の形」に取り組み、優勝の先にある事々に想いを馳せた。自然と一体になる呼吸、相方を信じ、二人で作る上げる形の奥深さに、今でも魅せられている。人格も出てしまう「形」、まずは人間修行も必要となる。この問題は一生の課題でもある。

《フランス、プレスト市へ》

—柔道で繋がる世界—

講道館で行われる夏期講習会に通うこと二十年、「形」を学ぶ

ために世界各国からの参加者も多い。そこで知り合ったスイス人のリリアン宅に三ヶ月間お世話になった。またフランスのプレスト市に住むルビアン・美和子さんと出会えたのもこの講習会だ。

三年前、日本の柔道界は騒がしかった。町道場に所属する私まで。そのモヤモヤ感は拭えなかった。柔道って一体……。私は何を目標にしているのだろうか。私は何を目指せばいいのだろうか。迷いの中にいた。そんな時、日仏会館でフランス柔道協会のミッシェル・ブルース氏の「フランスにおける柔道は、もはや国技である」という講演会があり、聞きに行った。「フランス柔道の歴史から、ここまでに育った経営戦略」とわかりやすい内容だった。私の質問にもきちんと対応して頂き、ご自身で不明なところは後日と、メルアドを教えて頂く。この眼でフランスの柔道を見てみたくなった。

二〇一四年五月一度目のプレストへ。好奇心と無鉄砲さは持ち続けている。

六十万と言われる柔道人口は、何がどのようにさせるのか？国内においてもだが、他の道場の稽古を参考にして、よいところは取り入れて行けるといい。日本は本家だが、他国から学ぶのも悪いことではない。

ルビアン・美和子さんはプレスト市の中心地で、ご主人と二人で修道館という道場を開いている。パリから西へ600キロ、軍港のある町だ。人口十四万人、そこに七つの柔道場があり、生徒は二百人から三百人、新しい所は百二十人だと聞く。指導者は柔道で生活が成り立つ。六歳から十一歳が、柔道人口の七〇%、いかに子ども達の多くが柔道に取り組んでいるかが伺える。

私は仕事としている製本術と、この子ども達の指導方法を学ぶために、プレスト滞在を決めた。資金を作り、一軒家の提供を受け、再度一カ月間、この修道館で学ばせて頂くことになった。

《子供たちの稽古風景》

はじまりは、きちんと座礼をする。百三十畳ある広い道場だ。ウォーミングアップのランニングは、円になり足を開いて座り、その間を順番に走る。次は片足跳び右・左。三つ目は、両足を閉じて座り、両足跳び。高さを加えて低い馬になり両足ジャンプ。ワイワイ言いながら励まし合い、協力の精神も学ぶ。次は二人組となり、一人は寝転び、両手を引っ張り、足を引っ張る。こうして足腰を鍛えている。また、横転がりは、足と頭を交互にしてお互いに足を持

ち、移動する。でぐり返しの子二人組もあった。

今度は三人組となり、二人は馬になり前進。その上に一人は乗り、落ちないようにバランスを取る。危なそうな時は補助の手が。この一人馬もある。上の子は横向きでバランスを取る。四十分近くこのような体幹を付けるトレーニングだった。

この日は寝技の指導があり、入り方、抑え方を何度も稽古していた。ある日は立技をひとつ。崩しから正確な掛けを繰り返していた。最後にいくつかのプログラムのあり「何がしたい？」と問いかける。この所「すもう」は人気らしい。チョークで円を描き、土俵とする。上級生が行司役を担い、勝ち抜き戦となる。子ども達のクラスは週に二回。時間は集中の切れない一時間だった。

柔道の広がりの一つとして、近隣の小学生の体験を実施している。日本の小学一年と幼稚園年長のクラスが一組ずつ先生と父母に付き添われ、月に四回の体験を受けていた。また小児科医たちも、柔道は身体と心の成長に適していると勧める。カラフルな帯を締めたり子供たちは楽しそうだった。

子供の試合に付いてだが、試合数は少ない。寝技だけの試合にも

遭遇した。一問の間合いを取り、礼。片膝を立て組み合つてから、「はじめ」の合図がかかる。地域の大会だったが、審判は中学生のようだった。父母たちの応援も和やかだった。

《楽しむクラス》

ここでは十二歳から、競技中心のクラスと、楽しみながら柔道を続けるクラスに別れる。その楽しみながらのクラスに参加した。年齢層の幅は広い。ウォーミングアップは、子供たちと同様のランニング。これに腹筋や背筋を付ける運動も加わる。技の指導は丁寧に行われる。乱取りもあるが、激しいものではなく約束稽古に近い。ある日は、入門して二カ月の白帯の人まで、護身術の形を学んでいた。

フランスでは、このクラスの人たちのためにも昇段の道がある。それぞれの段に昇段するための得点があり、三年前に、西フランスのその昇段試験を見学した。審査員は前日から集まり、その試験のための勉強会が持たれる。技術的な確認も成される。私には初めての柔術も加えられていた。翌日は朝から、審査員は三人が一組となり、項目別に一組ずつの試験となる。自分の研究した技の成果の披露もある。そして項目別に

結果がその場で発表される。その結果について、その場で受験者が審査員に質問をすることも出来る。うらやましい姿でもあった。試合は好きではないが、柔道をひとつの文化として、楽しみながら技の理合、形のあれこれを学ぶ。

私は、この日本文化愛好者の皆さんから、たくさんの親切を頂いた。

《美容体操としての取り組み》

ここには年を重ねた女性たちが集まる。平均年齢は七十代とみた。週に二回、休みなしの一時間。みっちり動く。最高齢は八十七歳。背筋も伸びスタイルも見事だ。驚いたことは、各種の腹筋運動が六百回もある。私も負けまいと張り切り、腹筋痛に苦しんだこともある。この美容体操は、どここの道場にもある訳ではない。日体大出身の美和子さんが考案した、健康と腹部引き締めに役立つ一連の体操である。

実は私も、四年前から月に二回ではあるが、「柔の形」を取り入れた体操の会を続けている。この形を、緩やかに腕を伸ばしたり、身体を反らしたりするリハビリの形として活用している。柔道経験のない六十歳以上の女性が十人前後参加している。「形」として覚える気があるかは怪しいが、面白

がつて続いている。肩凝りに効くとか、頭の体操にもなると言う。受身も少し取り入れて、転倒防止に役立っている。呼吸法と共に「柔の形」は健康維持のために有効な運動であることを実証している。

修道館には、小さなBARSペースがあり、稽古後のおしゃべりを楽しむ。七、八月は夏休みとなる。六月末日には「いい夏を」と二ヶ月間の別れを惜しんでいた。

《身体動く限り》

柔道と出逢ったお陰で、健康な日常と、精神面でも救われたことが多い。仕事での困難に身内のあれこれ。末期癌で入院していた父に対しても、心をしっかりと持ち、介護することが出来た。投げられても立ち上がる精神が生きる。試合に臨む時も、自分なりに一杯の稽古を積み、ほどよい緊張感を持ち、畳に上られる幸せを感じる。いざとなったらやるしかないの度胸は、世界一人旅にも役立っている。

フランスで学んだことを、所属する道場で紹介した。新しいことの好きな子供たちは喜んで、もつともつとせがむ。地元の子供たちにも紹介する日が近付いている。

私のささやかな柔道に対する恩返しだ。柔道を通して、身体と心を鍛え、子供たちが自らの力で、道を切り開き生きられる人にと祈る。身体動く限り、私も柔道が続けられたら、どんなに幸せなことだろう。まだ見えない世界がきつと。心豊かに生きるために、柔道はあるのかも知れない。

(新聞翻訳)

齋院志津子女史の滞在

齋院志津子さんは、親友の修道館教授のルビアン・美和子さんに迎えられ、一ヶ月間プレストに滞在している。十年前に二人は、東京の講道館での夏期講習会に出会い、共に汗を流した仲である。黒帯五段の齋院さんは、三十五歳で柔道を始めたとか！彼女は昨年、年齢、体重別の日本ベテラン大会で優勝している。以前は世界大会でも二位の成績を持つ。

しかし、柔道は彼女の職業ではない。志津子さんは製本の先生と言えるほど、非常に芸術的な技術を見せている。三年前彼女は、このプレストに二ヶ月滞在している。その滞在中ムーランの製本工房でドミク・ドヤードさんのところで技術を磨いた。今回もその工房での勉強を続けている。志津子さんは、日本では数回個展を開いている。

プレスト滞在中、グラスゴー街の柔道家たちは、彼女の経験を学ぶ機会を持ち、そして女性達の美容体操の人たちも同様に、それを見て、楽しむ機会を持った。日本に帰る前に、彼女はすでに訪れたことのあるスイスに一週間程、滞在する由。



Saint-Martin Shudokan. Séjour de Mme Shizuko Saini

commence le judo à l'âge de 25 ans. Elle a remporté, cette année le championnat de Master International dans sa catégorie d'âge et de poids et elle est classée troisième au championnat de Master International. Mais le judo n'est pas son métier. Shizuko exerce une activité artistique en tant que professeur de retraite. Il y a trois ans, elle était déjà venue à Brest pour une période d'un mois. À chacun de ses séjours, elle suit pour se perfectionner un stage de retraite au Montin de Kérou, à Saint-Sauveur, avec Dominique Deyard. Shizuko a présenté plusieurs expositions de retraite au Japon. Lors de son séjour à Brest, les judokas de la rue Glasgow ont pu une fois encore bénéficier de son expérience et le groupe de gym féminine a eu également le plaisir de la retrouver. Avant de repartir pour le Japon, elle se rendra en Suisse, pays qu'elle connaît déjà et où elle restera une semaine.

EN EXPRESS

Saint-Marc. Énergie citoyenne : assemblée générale demain

楽しい柔道について

茨城県 杉原 尚

(M11・60kg)



今年五月に『つぎはぎ人生、楽しい柔道』と題するA4 177頁の本を、第一の恋人である柔道を中心に、書道(第二の恋人)、相撲(第三の恋人)の想い出写真集として作り上げました。

私は、柔道を、十八歳で職場のサークル活動の一つとして

始め、八十一歳の今日までの六十三年間に渡り楽しんできました。柔道は最初から楽しいことばかりではなく、長い道程の中では、苦しい時もありました。

今では私は、私達がやっている健康づくり柔道や仲間作り柔道を、結論としては楽しい柔道を前面に打ち出してはいても、楽しい中にも柔道の基本はしっかりと位置づけ、さらに教育柔道や、人生に役立つ生涯柔道とすべきであると考えようになりました。

特に子供たちの柔道や高齢者の柔道にあつては、試合柔道(いわゆる競技柔道)に偏りすぎて、『障害柔道』にならないように注意しなければなりません。

嘉納治五郎師範は、すたれゆく柔術を新しい時代のスポーツに発展させたいと考え、危険な技は除き、教育的要素を取り入れ、『柔術』と命名し、私財を投げ打って世界の柔道へと広められた事は、既にご存知の通りであります。

柔道の最も大事な基本のひとつに『受け身』があります。これは、投げられてもケガをしないように身を守る技術であります。このような最初に負け方をならうスポーツというのも極めてまれだと思えます。

さらに武道としての受け身は、負けてなにかを学び取ることであり、究極的には生命を守り、いのちを大切に、次に『いかに立つか』『いかに生きるか』を学びとる事ではないかと考えます。

さて、前段の『つぎはぎ人生、楽しい柔道』と題した本を四十冊ほど作り、講道館図書資料部をはじめ、同志の先生方に贈呈いたしました。

多くの先生方から身に余る激励のおハガキやお手紙をたくさん

ん頂きましたが、紙面の都合で、三名の先生のみ、抜粋して簡条書きでは有りますが、ご紹介させていただきます。

一、場連盟のS・K様から

① 人生の足跡、感動である。
② 人の出会いの大切さを痛感。
③ 情熱に感心。
④ 発行にあつては、大変なご苦労があつたのではー。

二、友人K・K様から

① 杉原氏のエネルギーの源泉は何に由来するのであろうか。(私の返信「継続は力。これがエネルギーでは」)
② 少年時代の夢はなんだったのか。(私の返信「学校の先生、武装警察官」)
③ 杉原道場には、少年少女たちの世界が生き活きと溢れている。
④ 動の世界とは対照的な書道も習い、門人達を抱えている。
⑤ 相撲の有段者であることを初めて知った。
⑥ 少年相撲にも情熱を注いでいる。
⑧ 老人の私に夢を運んでくれて有難う。

三、マスターズ柔道のS・H様

① 後世に残る記録。
② 人生生き方の実践。
③ 生涯現役を継続。
④ 社会に対する貢献。
⑤ 嘉納師範の柔道精神への挑戦。
⑥ 大会記録の集大成。
⑦ マスターズ柔道の模範生。
⑧ 道場を建て、青少年の育成。

⑨ 全日本柔道少年団常任理事(事務局担当)として活躍。
⑩ 堂々たる人生、男の花道。
おわりに、今回激励を頂きました先生方に、紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。
激励をいただいた先生方の文を一人ひとり読んでいるうちに、元気が身の底から湧いてきました。

しかし、歳相応に無理せず、末永く柔道を続け、楽しみながら、柔道、書道、相撲道という道を、急がず、あせらず、一步一步進んでまいりたいと思います。有難うございました。

三回目の出場で銀メダル獲得

埼玉県 伴 章二
(M8・81kg)



私は個人戦ですが、今回の南紀白浜の大会で三回目になります。初めての参加は佐賀県嬉野市の大会で、二回目は東京

の講道館です。

一番緊張したのは、やはり九州の佐賀県嬉野市の一回目の大会です。会場の選手が皆強そうに見えて自分の相手が気になり、試合が進行し相手を見つけたときは意外と同じ位の身長で、ほっとして勝てそうだと思つてしまいました。結果は技ありの優勢負けで、これがマスターズ大会の試合なのだと肝に銘じました。

二回目東京では、講道館の道場は高段者の全国大会、東京都大会で気分は慣れたつもりでしたが、相手がどんな技で来るのかと、技を掛けられず判定で負けてしまいました。

三回目和歌山県白浜町の大会は、緊張感と共に三回目なので精一杯やろうという気持ちで臨みました。結果は、一回戦判定勝ち、二回戦一本勝ち、三回戦は決勝戦となり、試合をしてすぐに絞め技を掛けられて、何も出来ないで一本負けをしてしまいました。今度もマスターズ大会のレベルの高さを知らされました。

マスターズ大会の個人戦の試合は、優勝を目指して試合ができるところが、高段者大会と違うところです。また、真剣勝負の試合で緊張感を感じ、終わっ



右から2番目が筆者

「古式の形」で三位、個人戦で金メダル獲得

神奈川県 鈴木常夫
(M7・66kg)

た時の満足感と反省点もより大きなものとなります。

私の人生で柔道は大いにプラスになり、柔道抜きでは私の人生が成り立たないとも、感じています。今後も体力の続く限り柔道着を着て行きたいと思っています。

最後に、マスターズ大会の役員各位のご尽力に敬意を表すと共に、益々の御発展を心からご祈念申し上げます。

私は日本マスターズ柔道協会現会長の三橋英夫さんに誘っていただき大会に参加するようになり五年目です。年齢にしては日本マスターズ協会会員として新参です。

本年の日本マスターズ柔道大会出場に際しての目標は初日の形の部で「古式の形」での優勝でした。三橋英夫さんと組んで四回目の挑戦でした。平成二十六年、形の部に初出場してから日本マスターズ柔道協会前会長清家晴夫さんに三連敗してしまいました。昨年は神奈川県・関東予選を突破して全日本柔道形競技大会に出場できたので、今年こそマスターズ大会では清家組を破り優勝するという意気込みで白浜に乗り込みました。しかし結果はまたしても三位に沈みました。順位以上に思いも寄らない点数差に落胆しました。

現在、醍醐敏郎十段に師事して「古式の形」を三橋さん、清家さん達とともに修行中です。今後一層精進して「古式の形」の理合を正しく表現し、自身が納得いく演技ができるようになりたいと思います。

二日目の個人戦は気持ちを切り替えて臨めました。そしてM7・66kg級で優勝することができました。将棋の藤井聡太四段

の言葉を借りれば「自分にとって望外な結果」でした。時々参加する丸の内柔道倶楽部の稽古で一回りも年長の方々に乱取では全く歯が立ちません。入部したばかりの高校一年生が上級生に稽古をつけてもらうような練習をしています。これまで全国高段者大会には何度か出場していますが、トーナメント戦の試合で勝ち上がる自信はありませんでした。昨年までのマスターズ大会でも負け越してしまいました。今回の結果は「自分の実力からすれば僥倖」ですが、この結果を糧にこれからも無理をせず練習を続けたいと思います。

個人戦の表彰式で昨年の優勝者の庄司裕さんと「病気やケガに気をつけて来年も大会で逢いましょう」と言葉を交わしました。これからはマスターズ柔道大会試合後の「合い言葉」として「来年も逢いましょう」と言い合えるように長く柔道を楽しみたいと思います。



生涯スポーツとして柔道に携わっていきたい

兵庫県 今里 満
(M3・100kg超)



私は中学一年生の時より柔道を始め、高校・大学・実業団で、選手として柔道をやって参りました。今は指導者として町道場で柔道を指導させていただいております。

町道場では少年・少女の小学生から中学・高校・大学・一般生までを指導しております。指導者になってからは私的にあまり刺激のない平凡に柔道して参りました。ただ生徒には柔道を生涯スポーツとしてやっていくように先ずは柔道を好きになつて下さい。またケガをしないように準備体操と整理体操をきっちり行なうようにと言つて参りました。

ですが今回マスターズ柔道大会に誘っていただいた事により、新たに自分の柔道人生において楽しみが増えた事、さらに試合も各年代別・体重別である事により安全に柔道を楽しめて柔道を通じて人の輪が広がった事、大変ありがたく思っております。

この事は道場に帰りまして皆にも伝え、特に一般の生徒にも伝え、特に興味を示し、来年は皆も出場したいとの事でした。来年の宝塚柔道教室の目標は、宝塚柔道教室のメンバーで団体戦が組めたらチームで観光バスを借りて応援に行こうと盛り上がっております。ただ宝塚柔道教室のメンバー内で最高年齢は五十六歳なのでその方が四年待つてねと言っていたので、来年は各々個人戦で頑張れるよう練習に励んでおります。

最後になりますが今回このような機会を下さった大会関係者様の皆様方、誘って頂けたと思います。本当に有難う御座います。

柔道最高です！

世界・日本マスターズ柔道協会

思い出の記

日本マスターズ柔道協会
初代名誉会長 野口 宏水

二〇〇三年の第五回世界マスターズ講道館大会開催を機に、たくさんの方の柔道・武道愛好家のご支援を頂き創設した日本マスターズ協会の思い出は数多く限らないが、標題を上記として各大会のパンフレットや資料を出して読み始めたら、これまた沢山の思い出が際限なく蘇り、限られた字数・ページ数では収まらなくなり、結局次のようになってしまったことをご勘弁願いたい。

昭和十年（一九三三）生まれで戦前戦中戦後は文字通り「億一心勝つまでは」とばかり一億総貧乏総我慢の連続だった。それが日本史が始まって以来の敗戦で戦勝国の新しい文化に「転徙」し、九州佐賀・福岡の県境の脊振の山道を難なく登っていく進駐軍のジープにビックリ仰天、食べたこともない甘いチョコレートを買っては「ヨシ！僕もアメリカへ行こう！」と、中学に入ってから懸念に英語を勉強し、高校に入っては外交官になって日本のために尽くそうと努力したものである。この夢の実現のため、懸命に努力したものの、希望する東京外語大学は受け入れてくれず、方向転換して慶応大学英文学科に入学、勉強したものの九州の山奥出身として持て余した体力を発散すべく体育会柔道部に入ってもらい、二年より、清水・朝飛両師範と先輩同輩後輩の良き指導を頂

き、卒業初段を得て、先輩のご勧奨で当時の就職難時代に良い会社に入社させてもらい、ご恩返しとばかり仕事の傍ら懸命に魅せられた柔道に励み（実際に三井三菱京浜地区対抗戦を両グループの柔道愛好家と相図り創設した）、まだ渡航の自由化前の一九六一年、1\$1360円時代に全慶応道米柔道使節団の役員として参加したりしたものである。

これら少年時代よりの夢捨てがたく、会社も外資系保険会社アリコに転社、海外教育研修制度の普及のための海外出張の折にも、柔道着を携えてサンノゼ大学やUCバークレー、ハーヴァード大学などを訪問したものである。

更に、昨年他界された慶応柔道部三十年卒主将の宮崎 剛先輩より、一九九九年に世界マスターズ柔道大会がカナダにて開催されると聞き及び、既に「生涯柔道を通しての草の根外交」を標榜実践されていた丸の内柔道クラブの故水野会長を団長に、副団長として選手十一名、応援団十七名を編成、第一回世界マスターズ・カナダ・ウェランド大会に参加したのがマスターズ大会への第一歩であり、いまだにその緊張感と興奮は鮮やかに残っている。

その第二回カナダ最東端のノヴァスコシア大会役員会に出席した折、「日本の柔道発祥の地である講道館の畳の上に一度は立ちたいという世界の柔道家の夢を叶えさせて欲しい」と懇請され、日本へ持ち帰って嘉納館長、岩崎総務部長、貝瀬道場指導部長にお願いして、個人ではなく組織を作ってから始めるように

との嬉しいご快諾を頂戴して、日本マスターズ柔道協会を発足させたものである。

その発会式の興奮も忘れ難い。故郷佐賀の先輩今泉正隆元警視總監にお願ひして、会場をグラウンドアーケ半蔵門に設定、上記お三方をはじめ当時大病癒えたばかりの故橋本龍太郎総理大臣など武道に関わりある政・官・財・各界の錚々たる名士に集まって頂き、協会の発足を祝って頂いたことはその後の当協会の発展運営の礎として誇るべき金字塔であり、小生の人生至高の思い出である。

世界・日本マスターズ大会の思い出は更に尽きない。本稿の字数に限りがあるので、機会あればその機に譲らざるを得ないが、ここでは世界大会での強烈な印象を留めることしたい。

1. 第一回カナダウェランドでは初めての大会のため、参加者全員が緊張していたので、夫々収獲大であり、試合は必死で全員持てる力を出し切り、出場者十人中金4、銀4、銅2の成績だった。さらに新鮮な驚きは、形の部の出場者がわが方からは、佐藤勝志・椎木宗道組の柔の形のみなのに、外国人の出場組は多数であったこと。それまで聞いたこともない「極メ式の形」というのもありこれには全員ビックリ、帰国して大いに刺激を受け、発奮したものである。

2. 第五回講道館大会は、柔道発祥の講道館へのいわばサトガエリとばかり、世界より六百人が参加。迎える大和民族三百人。特にMUSODOSEN醍醐十段による「講道館の形」並びに英語での村田

図書指導部長による「嘉納治五郎師範に学ぶ」のセミナーは外来のマスターズに生涯忘れ得ぬ感動を与えていただいた。曰く、今長く夢見た講道館のタタミの上にいる！。今最高の柔道の先生からレクチャーを受けている！。...

3. 第五回講道館大会は未曾有の大盛況で、大会委員長の傍ら、選手としてM8・73kgにて金メダルを獲得。山下泰弘オリンピック・ゴールドメダリストより金メダルを胸にかけてもらって大感激！したのは今でも記憶に新しい。

4. 更に、第五回大会の大成功を享け、直後の役員会並びに会員総会に於いて、世界マスターズ柔道協会会長に選出されたが、次の第六回ウィーン大会まで、第五回にてのカナダ本部の大会運営、特に会計の明朗化に向けて、野口新会長とヴァンヘルダー前会長が訴訟人となりカナダ本部トレントにての裁判となり、リーマンショック前でお金と時間はタツプリあり何事も経験とばかり、深夜の本部との電話会議、更には、単身乗り込み、カナダ協会本部を相手に裁判に臨んだ。結果、次の第六回ウィーン大会での会員総会にてウヤマヤとなるも、カナダにて雇用した弁護士費用と彼のウィーンへの交通費等は小生が負担。今では年金生活に入っ

てチヨット...？ 否 否 否 いい経験をしました！

5. 以上の通り、世界マスターズ、日本マスターズの発足と運営活動につき略述したが、残念ではあったが、当然のことながら、WMJCは12回大会を以て自滅し終了した。

IJFに引き継がれることになり、それまで小生がノンビリと目標にしていた十個の金メダルに一個を残すのみとなっていたのが、最後のモントリオールで、漸くゴールド十個を獲得できた時は正に欣喜雀躍、実にも昇る境地でした！

以上 世界・日本マスターズへの僕の関与の推移を述べましたが、振り返って、生まれ育った時代・環境・夢・背景、それらに伴う思考・姿勢・行動などなどに大きな運命とも宿命ともいふべき何物かの存在を感じざるを得ないこの頃です。それらの結果として必然的に時には偶然に今日に來ったものであり、齢八十二歳にして大満足です。日本マスターズの会員の諸兄姉に置かれても、今までと同様そして生きている限り自分なりの関与の仕方に向かつて、柔道にマスターズにそして家庭に友人に豊かな人生作りに向かつていただくことを祈るや切。



第十四回日本マスターズ柔道
大会に参加して

東京都 森川弘文
(M10・73kg)



左から3番目が筆者

「日本マスターズ柔道大会」に初めて出場しました。柔道は社会人になって始めたもので、いまだに未熟です。柔道のキャリアのない私がベテランズ大会に出ると言い出したから、周囲の驚きは大変なものでした。私の決意が本気だとわかると、私が主催している『経営塾』から四人の塾生が応援に駆けつけてくれました。東京から和歌山の白浜まで来てくれたのには驚きでもあり、喜びでもありました。応援というより怪我でもされたら大変だ、見守りに行こう。そ

んな相談でもしていたのかもしれない。

四十歳のとき、練習中に怪我をしました。これで柔道をすることはないだろうと思いい、柔道着をしまっていました。柔道を再開したのは昨年十月、交通事故に遇ったのがきっかけでした。現場検証をした警察官が私に尋ねました。『車に跳ねられて、頭を打っていないのは不思議。貴方は柔道をしていましたか？』

柔道がこんなところで役に立つとは思っていませんでした。年をとって心配なことは、認知症になること、脳血管疾患になることだと言われていました。しかし、実際はもっと怖いものが別にあります。それは転倒や骨折です。二〇一三年、厚生省「国民調査基礎調査」によると、介護が必要になる原因は「運動器疾患」によるものが最も多く、25%にもなります。ほとんどが日常生活上の躓き（つまずき）による転倒や骨折によるものです。脳血管疾患（18.5%）や認知症（15.8%）よりも多いのです。

きが原因です。『そうだ、もう一度柔道をして体を鍛えなおそう』、そう決意して日本マスターズ柔道協会の仲間入りをしました。

年を取ると、体を鍛えるより読書のような精神的な糧を求めて気力を保とうとします。

しかし、体力がないと、精神的な糧も受け付けません。読書が却って内向きにして、気力を奪うことがあります。年を取ったら、却ってどんどん外に出て、人と交わり、体を動かすことが重要かと思えます。

早速、練習を始めたのですが、長い間のブランクはどうにも埋まりません。悪いことに練習を一ヶ月目に若いときに痛めた傷を再発させました。それでも練習を続けられたことは、講道館で三橋英夫会長、西久保博信副会長から直々の指導と励ましを受けたからでした。

柔道を再開して感じたことは、若いときと違って柔道に対する考えが違って来たことです。若いときは強さに憧れていた。しかし、今では柔道の美しさに憧れます。三橋英夫会長や清家春夫先生の古式の形を見るにつけて柔道って『美しい』と思います。

建築家のルイス・ヘンリー・サ

リバンが「機能が優れている建築物は形が美しいのです」

と述べています。つまり、倒れない建築物は形が美しいのです。同じように、鍛えられた柔道家は姿が美しいのです。

三島由紀夫は『礼儀正しい作法は男性を男性らしく見せる』と述べています。そして、剣道選手の間では「礼儀正しい作法は男性を男性らしく見せる」と述べています。そして、剣道選手の間では「礼儀正しい作法は男性を男性らしく見せる」と述べています。そして、剣道選手の間では「礼儀正しい作法は男性を男性らしく見せる」と述べています。

三島が柔道を取り上げなかったのは、彼が柔道をしなかったからです。三島が、たとえば井上康生氏の柔道姿を見ていたら、柔道は『美しさ』と言ったと思います。

鍛えられた柔道選手には柔道着がよく似合います。高齢者になっても高段者の柔道姿が美しいのはそのためです。

若い人の柔道には、「動」の美しさがありますが高段者の場合は、「静」、落ち着いた美しさがあります。長い時間をかけて鍛錬を重ねて築き上げた結晶だから、若さだけでは真似できないのです。それは、達人が醸

し出す雰囲気、風格とでもいうものです。

私は月一度のマスターズ柔道練習会を楽しみにしています。交流の楽しみや先輩たちの立ち振る舞いを見るのが楽しいのです。礼儀正しく、柔道着姿が美しいのです。

今回の大会では、もう一つの美しさを見ました。「交わりの美しさ」です。新潟県の清水恒夫先生、愛知県の村山充孝先生と知り合いになりました。試合が終わった後、きちんと挨拶をして、健闘を称えあいました。両先生には、凛とした中に、温かさを感じました。

清水先生、村山先生とは、その後も付き合いが続いております。三人とも来年もマスターズ柔道大会に出場します。私は八十歳以上のクラスに参加します。七十歳クラスの両先生との対戦はなくなりましたので、来年は両先生の応援にまわります。再会を今から楽しみにしています。

試合の後は、森川応援団全員で南紀の景勝地を回りました。風もなく、南紀の海はどこまでも青く広がっていました。海岸を一望できる茜千畳茶屋での昼食は格別に美味しかった。浮かれていた為でしょうか、茜千畳

茶屋に忘れものをしました。連絡すると二日後、茶屋から頑丈な包装を施した忘れ物が届きました。それには景勝地の絵葉書と美しい字で認められた礼状が添えてありました。その心遣いの美しさに更に感激しました。

私の応援団が『柔道ってこんなに素晴らしいのですか』と感想を述べていました。これが嬉しかった。今後とも、機会あるごとに柔道の効用を広めていきたいと思っています。

日本マスターズ柔道大会は、私に多くの美しさを与えてくれました。大会関係者の皆様、主催県の和歌山県の皆様、東京都北区柔道会の皆様、そして森川応援団の皆様ありがとうございました。

柔道は私のライフワーク

兵庫県 西山五郎
(M7・60 kg)

高校から柔道を始めて四十五年が過ぎました。父親が旧制中学時代に柔道をやっており、たまに柔道の話を嬉しそうにし

ていた影響なのでしょう、大した考えもなく、高校では柔道部に入学してしまいました。

当初は、三年の先輩に足払いで木の葉のように投げられ、いくら初心者とは言えこんな簡単に投げられるのかと本当に情けない思いでした。それ以来、大学、就職後も柔道を続け現在に至っています。

学校を出たあとの稽古は、会社の柔道部、母校の高校、坂出と丸亀の柔道協会、ロンドンの道場（東京オリンピックUK代表が運営）と色んな所でさせてもらいました。

現在は、マスターズ常連の中村古先生の道場で稽古しています。大矢八平先生にも毎週木曜日の夜稽古をつけて貰っています。稽古をさせてもらえると嬉しいです。

マスターズ柔道との関わりは、岡山大会を観戦してからです。たまたま大学の同期が出場しており、それに刺激を受け、次回が姫路開催であり出てみようかと思っているところに、中村先生のお誘いがあり団体戦のチームの一員として出場する事にしました。チームのメンバー

は強い方ばかりなので、迷惑をかけまいとの思いで試合に臨みました。対戦相手は私より年齢が二、三クラス上の方にも関わらず、引き分けするのが精一杯でした。後でわかったことですが、相手の方は前会長の清家春夫氏で、よくも負けなかったのだと胸をなでおろした次第です。

その後は、大枚をはたいて大分での個人戦に参加しましたがあえなく初戦敗退。以降しばらく勤務地の関係で参加せず、前回の講道館開催より再度参加しています。皆さん柔道が好きで強い方ばかりなので、なかなか勝たしてもらえず悔しい思いばかりしています。

マスターズには大学の先輩方も多数参加され活躍されています。それ見ると自分もまだまだ頑張らねばと、弱いながらもしぶとく柔道を続けていきたいと思っています。



フランスの柔道青年とのものです

私の健康法

事務局次長 原 優（東京都）

私は、現在、体調が良いのでその要因を考えてみましたところ、以下の三つが思い浮かびましたので皆様にご披露致します。参考にしてください。

① 古式の形の稽古が身体全体のマッサージになっており、私は、週に最低三回は稽古をしていますので、週三回の全身マッサージを受けていることになると思っています。



② 去年の十一月の健康診断結果から、禁酒を現在（平成二十九年十月）まで実施したことにより、全ての血液の検査項目が合格数字となりました。

また酒を飲まないことによるメリットは以下の通りです。

イ、酒による頭脳の鈍化がなくなり、常に鋭く使用できること。

ロ、処理能力が改善された結果、処理時間が短縮され、余った時間を有効利用でき、好きな本を沢山読めること。

③ 最後はゴルフです。相手は人ではなく大地との闘いと言われますが、緑と木に囲まれ太陽の光を浴びてプレイすることは、自然を相手に体を動かして遊ぶことで、最高の気分になります。知人の医者から聞きましたが、一ヶ月に数回程度は太陽光線を浴びることが骨にも良いとのこと（紫外線がカルシウムの吸収を助ける。またビタミンDを作る）。

只今研究中のゴルフスウィングは米国の有名なインストラクターであるレッドベター氏が推奨するAスウィングです（柔道の理念の一つである精力善用の考え方と同じで、今までの大振りではなく最大限にコンパクトに振る方法です）。

以上三つが要因と思われますがその他に週三回の乱取稽古がもう一つの要因かもしれません。

柔道から学んだ、正しい身体の
使い方を活かした『体幹理論』
を開発

大阪府 中川 隆
(M4・81 kg)



私は中学から大学まで柔道部に所属しました。就職を機に一旦柔道からは離れていましたが、三十二歳で転職してスポーツクラブトライの経営を始め、三十六歳でトライ柔道教室を開いたのをきっかけに柔道を再開しました。

今も経営とスポーツトレーナーをしながら、子どもから大人まで約四十名の生徒に柔道の指導を行っています。柔道は私に色々なことを教えてくれました。

その中の一つが『正しい身体の使い方』です。

中学時代は力は強かったのですが、思ったように技が掛からず、理想とする柔道ができずに試行錯誤を繰り返していました。

高校に入学し、二年生になった時、部員が三人となり廃部寸前になりました。そこで、柔道部を守ろうと顧問の先生に指導方針の改訂を直訴し、見返りとして、強くなることを約束しました。その時から自分の中で何かが変わったように思います。

力に頼り過ぎず、合理的に相手を投げるということにこだわ

り、追求していくうちに、ある一つの法則に気が付きました。それは柔道の練習の基本として、どこでも行われている動きなのですが、その意味に気付いた時、身体に安定を感じ、思い通りに動け、相手の動きがよめコントロール出来るようになったり、持久力が上がったことにより、掛けることが出来る技が一気に増えていきました。

柔道の真髄である『柔よく剛を制す』『心技体』に触れることが出来たように感じました。三年生となり、部員も十人に増えたため、廃部を免れ、現在も後輩たちが伝統を守り続けています。

大学生となり、柔道部に所属しながら、更に身体の動きを追求するために、苦手だった持久力系のトライアスロンやマラソンにも挑戦しながら、研究を続けていきました。

現在はそれらの経験、研究結果をまとめた独自の正しい身体の使い方を理論化した『トライ体幹理論』を開発し、柔道だけでなく、陸上競技、フィギュアスケート、サッカー、野球などのあらゆるスポーツ選手や声楽家、演奏者、障害者のリハビリなど、お子様からオリンピック代表、そして年配の方まで指導しております。指導した人が自己ベストや日本記録・世界記録を更新したり、杖なしで歩けなかった人も両手を振って走れるようになるまで回復されています。

柔道をしていなければ、この『トライ体幹理論』を作り上げることは出来なかったと思います。これからも、柔道から生まれたこの理論を使い、多くの人の幸せと笑顔に貢献できるように精進していきたいと思

います。また、日本ベテランズ国際柔道大会においても、毎年激戦区でもある81kg以下級で優勝出来るように頑張ります。

二金会合同稽古

京都府 品川 雄功
(M6・60 kg)



五十歳代に入り数年前から筋力の低下が顕著に感じるようになり、今までと同じ柔道では長く続けることは難しいと思うようになってきました。そこで、日本マスターズ柔道協会の目標である生涯柔道を実践されている先生方の心構えや稽古を学ぶべく、昨年から年二回のペースで二金会に参加させていただきました。二金会とは日本マスターズ柔道協会の合同稽古で、講道館にて、毎月第二金曜日の午後六時〜七時に行われています。ホームページでも概要が掲載されていますが、日本マスターズ柔道協会の会員であれば、年齢を問わず、誰でも参加できる稽古です。参加人数は三十人前後、年齢層が六十代

および七十代の先生が中心で、五十代の私は最も若い世代でした。

稽古内容は稽古開始の礼の後、準備運動、受け身、打ち込みと続きます。打ち込みでは、年齢を感じさせない気迫が伝わってきました。乱取り稽古では特に時間設定がないので、通常は乱取り一本あたり四、五分間となります。一般に試合や乱取りではお互いに組み合ったとき、直感的に相手の技量が伝わってくるものです。しかし、二金会の稽古では最初に組んだ瞬間、先生の鍛え抜かれた技量、力量が電気のようにビリビリと柔道着を伝わってきて、全身が感電したかのごとく動きが制限され、終始圧倒されてしまいました。まさに生涯柔道の成果を発揮した技を体感した稽古でした。また、一〇分に及ぶ稽古をつけていただいたこともあり、その時はスタミナを持続させるための重心移動において、合理的な抜重動作を使った技を受けることができ、貴重な体験となりました。

稽古で汗を流した後は、地下レストランの「じえびあん」において懇親会が開催されます。本協会の三橋会長はじめ役員の方々、指導者として活躍さ



れている先生方との親睦と交流を図る場です。初めて参加した時も気さくに声をかけていただき、温かく迎えて下さいました。懇親会では参加者全員の一分間スピーチがあり、近況や柔道の大会などの情報交換などが行われます。世界マスターズ柔道大会に参加される先生も多く、大会の前には選手の意気込みや熱気あふれる盛大な壮行会となりました。

二金会合同稽古に参加して、柔道の奥深さ、素晴らしさを実感することができました。今後、生涯柔道の成果を日々如何なく発揮している先生方を目標に氣力を充実させ、日本マスターズ柔道大会に挑んでいきたいと思

NHKテレビに出演して

滋賀・修心会 片桐清司

新涼の九月末、わがマスターズ柔協の森本事務局長より「NHK大津が、片桐さん取材したいとのこと。電話番号を教えてください。電話番号を教えてください。」との電話が入りました。

その半月ほど前の九月三日、かつてオーストリアとフランスの両大会に同行応援してくれた岳父の命日には滋賀県スポーツ指導者研修会において「暴力問題の根源」と題し、百三十名の前で講演しており、その関係かと思ひ承諾。すぐにNHK大津放送局の下川リポーターなる若い女性から会いたいと電話があり、我が家で出会うから五日後にはカメラマンや音声さん達と再び来宅。取材の目的を尋ねると、昨年十一月の「世界ベテランズ国際柔道フロリダ大会での銅メダル」の産経新聞記事を見て「世界で金メダルを目指す七〇歳の現役柔道家」としてスポーツの秋に因んで紹介したいとのこと。

起床時のストレッチや筋トレ、近くの山裾での一人打込み

など、小生の秘密鍛錬法をNHKファーストで全て暴露。その後、道場での少年指導を含めて約五時間の収録。その中で得意技を紹介してほしいとの注文があり、世界で一本取った体落とし、燕返し、大内返し、隅落し等を披露。六十歳代で初めてかかる技の不思議を語るも、殆どカット。

放映は十月四日「おうみ発六三〇」のゴールデンアワーにおいて七分半。県下各地から『観たよ』の嬉しく、懐かしい電話が続々。警察OBの大先輩からは「我々の鑑」と称賛され、これからも子供たちの育成を頼むとの強い激励。また、滋賀の三〇代マスターズ柔道エース岡田選手からは「四歳になった息子が片桐さんに釘付け。妻からは、やるならこれ位やり込んでほしい、と言われました。」との喜ばしいライン。また、その三日後には「おうみ発八四五」の別時間帯に、更に福井と三重でも再放映。滋賀近交(株)(例年マスターズ大会に協賛)のポンサー名入りゼッケンの道衣が映り、少しばかりの恩返しできた上、次回メキシコ大会賛

助の約束も。

一〇月二四日夕方方には関西一円にNHKラジオにも放送され、近畿の柔友に事前連絡。

最近のマスコミでは、栃木のマスターズ内藤副会長ご一家のテレビ放映を長崎の柔友より連絡あり、観ていた多くの国民が感動。柔道普及発展にマスコミの果たす役割は大きく、野球やサッカーばかりに独占させては決してなりません。

東京五輪を前に、皆様ももっともっと積極的に、柔道の情報提供をお願いします。



未だ柔道が好きを実感

熊本県 上野清吾
(M8・100kg超)



2014年 7段 合っ
左は知り 雅昭
右は筆者、 大保
講道館の 東京

私が、最初にマスターズに出場したのは、勤めていた警察を六十歳で定年退職した後、大学の後輩で親交のある長崎県警師範の佐原恭輔先生から第九回マスターズ山口大会への出場を薦められてからのことでした。その試合で一〇〇キロ超級と無差別の二階級にエントリーし、優勝することができました。試合後、多くの先生方と歓談する機会があり、全国に友達も増え、この様な年配でも出場できる試合にこれからも身体が許す限り出場することを決めました。

私の柔道歴ですが、高校入学後、柔道着に袖を通したのが柔道人生の始まりです。初心者の私は船山辰幸先生の指導を受けて三年生の時、福井県で開催された国民体育大会少年団体の部に出場し優勝することができま

した。

その後、国士館大学に入学し、上野孫吉先生の指導を受け四年時には、全国学生柔道大会団体に出場し準優勝することができました。

大学卒業後、熊本県警察官を拝命し、全国警察柔道大会、国民体育大会、全日本選手権大会（七回出場）等に三十七歳まで現役で試合に出ていました。

定年後は、趣味の家庭菜園、有害鳥獣（主に猪）の駆除手伝い等適度な生活を過ごしていましたが、子供達三人が柔道をしていて関係から当然に孫も柔道という事になりました。孫の一人が、私の母校鎮西高校に進学したことから、私も同校で師範の許しを得て汗を流すことにしました。

マスターズ山口大会出場以後、未だ柔道が好きという事を実感し、勝ち負けは別にして、試合は各地で開催されることから、試合には妻も一緒に行き応援してくれま。試合後は、同年代の先生達との交流も深まり、又、試合に臨むための無理をしない稽古は、私にとって健康維持管理に最も適していると思います。

次回の愛媛大会を妻と共に楽しみ見しています。

五回出場の表彰に感激

和歌山県 新谷 保
(M5・81kg)



私がマスターズ柔道を知ったのは公式サイトへの投稿からでした。その話を柔道教室で子供達に指導している先生に言ったのが参加のきっかけです。全国各地の生涯現役でされている先輩、諸先生方並びにご指導されている方々が参加していると言う事と、また年齢が三十才以上であれば誰でも参加出来るこの事でしたので、第九回山口県大会に参加させて頂きました。

初めて参加させて頂いて思った事は、大先輩方、特に高齢者の先生方の試合を見て、とても高齢者と思わないほどの試合をしていることに感動しました。また、同じ階級に参加されている先生方にも声を掛けて頂き、初めて会った人なのに、やはり

柔道をされている方は違うな、心・技・体・を改めて実感しました。また、初出場でたまたまですが銅メダルの三位を頂き、遠方まで参加した甲斐があったなあ、良かったと思い、以降の大会には毎年参加させて頂いています。

第十回・第十一回は講道館に、第十二回は佐賀大会の嬉野市に一人で参加させて頂きました。第十三回大会の講道館での参加に引き続き、今年の第十四回大会は和歌山県の白浜町での大会と六年連続で参加させて頂きました。出場記念五回と言う事で二十四名を代表して表彰までさせて頂き光栄に思っています。

地元の柔道教室で子供達の指導をしています。その子供達・父兄の方々が応援に来てくれた事にもやはり柔道をしていて良かったと、さらなる実感をしました。これもマスターズの大会に参加してからだと思えます。感謝の気持ちを忘れず、気力、体力の続く限り生涯現役選手として今後とも頑張って行きたいと思っています。

最後になりましたが、日本マスターズ柔道協会の皆様及び、大会の準備等でご尽力頂きました関係者の皆様へお礼申し上げます。また、日本マスターズ柔

道協会の益々のご発展と、協会会員の皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

和歌山県でのベテラン国際大会に参加

神奈川県 清水勝彦
(M10・66kg)



観光地、白浜町でベテラン国際大会が開催され、そして盛大な懇親歓迎会に参加し、歓迎の温もり覚めぬまま、次の日に個人戦に出場、お陰で念願の賞を戴き、この賞は一生の思い出と成ります。

五十年前に戴いた賞とは又違う、この国際大会で戴いた真新しい賞は格別で、世間ではこの高齢にしてまだ大会に参加しているなんて考えられないと云われるが、これからは柔道を生涯スポーツとして頑張り続けて行きたい。その為にも健康でなければと、自分に言い聞かせながら後期高齢者の仲間入りした

マークをつけて、身の丈に合う適度のトレーニングを続けて、一日一日を悔いのないよう過ごしたい。

毎月講道館で行われる二金会の稽古は楽しみに参加している。緒先輩方の多彩な技を研究出来る最高の稽古場でもあり、その技を地元に戻り高校生を相手に研究するのも楽しみの一つである。

柔道の稽古は週三〜四回ですが、まともに稽古をすると、たぶん身体の骨組みが壊れるでしょう。そこで柔道以外のインデアカと言うスポーツを行い、ネット越しに130キロ位のスピードで打ち込んで来るボールを、片手で受け上げる動体視力を必要とする運動を少しでも柔道の身に付けれるかと思い週二回参加。

又、月に二回はソフトバレーの仲間に加わり、ボールを追いかけて体の中心を寄せて捕まえようとするが、とんでもない所にボールが弾ける。このような事が私の柔道の身体移動に少しでも役立てはしないか、などいろいろなスポーツから学んで取り入りたい。

それらを体力のない私は繰り返しを何百回も行わないと身に付かないだろうし、毎日訓練する

事が励みにもなる。

高齢に成つてこそ考える事はいつも、もう少し若ければ、もう少しパワーがあれば、もう少しスピードがあれば、などと考えてトレーニングを続けるが、どうしても若い者のスピードとパワーには追いついて行けず、投げられると体が痛いし、振り回されると目が廻る。相手に技を掛けられる前になぜ体を裁いて防げないのか、それでは体力の有る相手には投げられるままだぞと、自分に言い聞かせながら、老いた身体を振るえ立たせている。マスターズの大会には大勢の先輩達が居るのだから目標を持って現役で頑張ろう。

三代の柔道一家
— 礼節、謙虚、感謝の心を胸に

神奈川県 小川武樹
(M 6・73 kg)



私は日本マスターズ柔道大会には、第十回大会より参加し、

松山大会への割安な交通手段について

専務理事 浅田三男（神奈川県）



今年の日本マスターズ柔道大会は、初めて四国に上陸します。「坊ちゃん」や「道後温泉」で有名な松山市の愛媛県立武道館で開催されます。

昨年の白浜大会は、関西地区からの参加者が多く、初出場も三割を占め、非常に活気のある熱戦が展開されました。これまで、四国地区からの大会出場者は限られていましたが、今年は四国各地からの参加者も含め、多くの柔道愛好家の出場をお待ちしております。

四国には、松山市から近距離で行ける有名な観光地、名所・旧跡が多数ありますので、大会終了後、これらを見学して帰られるのも、良い思い出になるのではないのでしょうか。

一方、遠隔地の方は、松山までの旅費が高いということで、出場に二の足を踏まれている方もおられるのではと思います。しかし、松山へは非常に交通の便が良く、ＪＲ、飛行機、バス、船等の色々な交通手段があります。すでにご存じとは思いますが、割安で行く方法もありますので、皆さんの大会参加検討時の一助になればと思い、その内容をご紹介します。（ＪＲの紹介は省略）

① 松山には、札幌、成田（ＬＣＣ）、羽田、

中部、関西（ＬＣＣ）、伊丹、福岡、鹿児島、沖縄からの飛行機が乗り入れております。特に東京、伊丹からは一日十二便が到着しており、飛行場から市内までバスで二十分です。ＪＡＬ、ＡＮＡでは搭乗の七十五日迄に航空券を購入すると片道九千円〜一万五千円程度（出発地で異なります）になる早割制度があります。席に限りがあるそうですので、出場を決められましたら、早めに購入されることをお勧めします。

② バスは関東以南の主要都市から出発しています。料金は安いのですが、乗車時間が長くなりますので、体力に自信のある方にお勧めです。

但し、京都・大阪からのバスは、昼間の便もあり、所要時間は五〜六時間、早朝出発すると昼過ぎには到着します。料金は片道七千円程度ですが、早期割引もある様で、これを利用されると更に安くなると思います。

③ 三津浜港は松山市内にも近く、山口（柳井）、広島・呉、小倉からフェリーが入港しており、運賃も片道三千六百元〜五千五百円程度（出発地で異なります）です。九州、中国地区の方は、これを利用する方法もあります。

以上、ご紹介した交通手段は、現時点と大会開催日では、出発時間・料金等が異なることがありますので、インターネット等で情報を確認願います。

昨年和歌山県白浜町で行われた第十四回大会で五回目の出場となりました。

柔道との出会いは祖父が警察で柔道を志しており、父も横須賀の渡辺利一郎先生の道場出身で、実業団で長く柔道を続けており、その背中をみて育った私は、いつしか、柔道着をまとうておりました。親子三代の柔道一家と言う事になります。

マスターズは体重別階級制で

あることから、減量をよぎなくされ、通常80kg以上ある体重を大会の計量日に向けて、一年がかりで体重管理を行う生活が続いています。私のエントリーはM6・73kg級ですが、若い時とは違い減量をするのが並大抵の苦労ではありません。仕事の合間や休みの日などに時間を見つけては、自宅から7キロ離れたスーパー銭湯までロードワークをしてサウナで汗をかくて減量をする。食事もあるだけ炭水化物を取らず体重維持に努めてはいますが、大好きな晩酌の誘惑にはどうしても勝てません。走り込みは体幹トレーニングの基本ですので、ロードワークのおかげで足腰はまだしっかりしており、まだまだ若いものと稽古をしても引けをとりません。減量をするためのプロテインの

常飲も効果的です。

最近ほロードワークの友として一歳になる愛犬ジャックラッセルのぼんずと共に走るのが趣味になっており、うちのワンコは筋肉ムキムキマッチョ娘になっていきます。今はマスターズに出場することで、減量することが義務化され、健康管理の一環として、体重計に乗り目標の体重に近づいていくことに喜びを感じるこの頃です。

私は、昨年横浜市にある戸塚区柔道会の会長に就任し、同年十月八日に市立戸塚高校武道館において、「第四十一回戸塚区民柔道大会」を戸塚区体育協会と戸塚区柔道会主催で運営開催致しました。大会では、「親子で盛大に。」をモットーに幼児の部から一般の部まで計246名がエントリーし、親子家族ぐるみで出場されたところもあり、家族の絆を感じました。二〇二〇年に日本で行われる東京オリンピックに向けて、国技である柔道に地域の関心が向いています。私は今後もこの伝統ある大会を継続していき、より一層地域の方々が柔道に親しみを持つてもらえたらと思っています。

柔らの道の「道」という言葉に宿るこの国のこころ。「道」

の一字がつくのは、自分を磨き、高めるための「道」だからでしょうか。勝ち負けよりも、礼を重んじる。相手を敬い、感謝の念を忘れない。そんな境地に通じる「道」と言う言葉がつくる、この国独特の文化。礼節、謙虚、感謝、見えないけれど大切なこころ。大事にしたいです。これからの将来を担う子供達や指導者達に競うのは技のみならず、礼を重んじ他の人を思いやる精神を受け継いでいってもらいたいです。これからも「生涯現役」をモットーに柔道に精進していきたいと思っています。

~~~~~

マスターズ柔道大会に出場して

―女子団体戦で優勝

愛知県 植田 真帆  
(F3・70kg)

故郷の和歌山県でマスターズ柔道大会が開催されると聞き、申し込み締め切り直前にバタバタと仲間を集め、「愛知デラックス」として女子団体戦に初めてエントリーさせていただきました。勢いで申し込んだものの、試合なんて十五年ぶり「ケガだけはしないように」と、まずは体

づくりを始めましたが、不摂生し続けた身体はなかなか思い通りには動いてくれませんでした。

今大会を通じて、私は2つの柔道の魅力を再確認することができたと思っています。まずは、弱い自分自身と向き合う「勇氣」。試合前の極度の不安・緊張感。周りの選手がみんな自分よりも強そうに見えて、その場から逃げ出したくなる。それでも「勇氣」を振り絞って試合場に入って礼、左足から一歩前に出た瞬間、なんだか勝てそうな気がして、「よし、こいつ」と相手に立ち向かっていく。年齢を重ねるごとに色んなことから逃げることはかり覚えてきた私にとって、久しぶりに「勇氣」を振り絞って本気で立ち向かっていくことができたこの経験は、とても新鮮で心地よいものでした。

二つ目は、柔道を通じてつながる多くの「仲間」。生まれ育った故郷で開催される本大会には、運営や審判等に多くの地元の方や生徒が携わってくださいました。試合中、聞こえてくる「がんばれ！」という声援に後押しされ、普段感じることのないレベルの集中力を発揮することができ、「応援を力に変える」というのは正にこのこ

とだと体感することができました。また、新しい「仲間」との出会いもありました。一回戦で対戦した選手と名刺交換したことがきっかけで、講道館の稽古に誘っていただき、先日一緒に汗を流すことができたのです。

「柔道の修行者は、おのおの社会に對して大使命を有するのであるということを見出し、精力善用・自他共栄の精神をその身に実行してもらいたい」(「柔道の使命を論じて修行者の融和結束を望む」『柔道』第2巻第10号(昭和6年)より)

これからも精力善用・自他共栄の精神を実行すべく、使命感をもって柔道修行に努めて参ります。今大会の出場にあたり、一緒に出場してくれた仲間、和歌山県の先生方、多くの関係者の皆さまにお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



右端が筆者

嘉納治五郎師範と

生涯柔道について

日本マスターズ協会 前会長

清家 春夫

日本マスターズ柔道協会は、平成十四年に設立され、本年度で十六周年を迎えることになりました。

設立の目的は、「生涯スポーツとしてのマスターズ柔道の普及・振興を図り、以て、会員の心身の健全発達と青少年の健全育成に寄与する」ことにあります。

昨年の六月十七日・十八日の二日間にわたり、和歌山県白浜町において開催された二〇一七年日本ベテランズ国際柔道大会（第十四回日本マスターズ柔道大会）が開催され、国内外から約六百人の選手が個人戦・形競技・団体戦に参加しました。

その中で注目されたのは、出場選手の中で七十歳代が六十二人、八十歳代が十一人参加、生涯柔道を実践している姿を示し、大会を盛り上げてくれたことでした。

マスターズ柔道愛好者が目標とする生涯柔道を実践した先人の中に、嘉納治五郎師範がいます。

師範は明治十五年（一八八二年）五月、講道館を創設し、昭和十三

年（一九三八年）五月四日、七十九歳で逝去されるまで日本傳講道館柔道の中核的存在であり、柔道を世界に広めるために多大な貢献をしました。

嘉納師範は、競技としての柔道を推奨するとともに、「柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によつて身体精神を鍛錬修養し、斯道の真髓を体得することである。そうして是によつて己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究局の目的である。」と唱え、柔道を通じた人づくりを重視されました。

師範は、晩年まで古式の形を演武し、生涯柔道を実践しました。七十歳の時、天覧試合で古式の形を披露していますので紹介します。

昭和四年（一九二九年）五月四日、五月五日の両日、宮内省においては皇宮警察部の主催のもとに、皇居内の武道場において御大禮記念の武道大会が開催され、柔道の部で五月五日の天覧試合に出場できたのは、栗原民雄、牛島辰熊など四選手で、栗原民雄六段が優勝しました。

この時、講道館館長の師範は、山下指南役と莊重なる古式の形を演じて天覧に供しました。

昭和五年五月五日、大日本雄弁

会講談社が発刊した「武道宝鑑」の付録巻頭に、柔道の古式の形（取・嘉納師範、受・山下講道館指南役）の表十四本の写真が掲載されています。

同書の「はしがき」（昭和五年四月十四日付）の中で、「古式の形は、大会当日、陛下の御覧せられたものと全く同じ形で、武道精練の極致を示したものであります。当時場所の都合や光線の関係から、完全に撮影できなかったものを、宮内省のご尽力により、本年一月末から二月初めにかけて、寒い雪空の中を、屋外に鯨幕を張つて新たに演武場を設け、特に多忙中の先生方を招請して、前後数回に亘り、撮影して頂いた得難いものであります。」と説明しており、大会当日の古式の形の演武状況を知ることが出来ます。

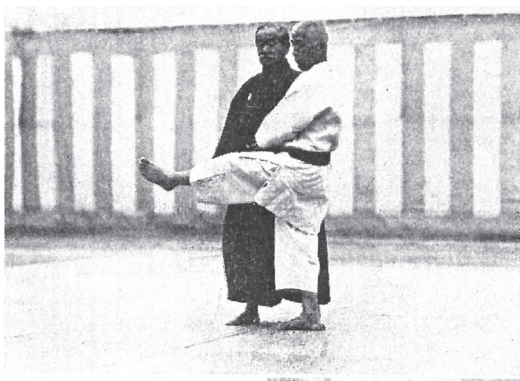
特定非営利活動法人全日本柔道普及会の梅津勝子会長は、日本マスターズ柔道協会が発刊した記念誌「日本マスターズ柔道協会十二年の歩み」の祝辞で「嘉納師範が望まれた生涯柔道、このマスターズ柔道の誕生で、やっとその時が来た」と、これに勝る喜びはありません。老若男女、家族ぐるみ、和気あいあいの生涯柔道が本物になったと思います。日本マスターズ

柔道協会の益々の発展を祈り、心より祝い、応援して行きたいと思っております。」と述べています。

生涯柔道を目標とするマスターズ柔道の裾野は、年々広がりを見せていますが、さらに柔道を愛好し、継続する人を増やしていく努力が必要だと思ひます。

私たちが愛好する日本傳講道館柔道の伝統・歴史に学び、心身を鍛えらるとともに、マスターズ柔道を通じて国内外の柔道仲間との交流・親睦を図り人生を豊かに楽しんでいくではありませんか。

平成三十年の新年を迎え、日本マスターズ柔道協会の益々のご発展と会員・関係各位のご多幸・ご活躍をご祈念申し上げます。



師範館道講納嘉 捕



役南指館道講下山 受



////////////////////////////////////

二〇一七年日本ベテランズ国際

柔道大会

(第十四回日本マスターズ

柔道大会)

【形競技の部】

投の形

|    |   |              |    |
|----|---|--------------|----|
| 1位 | 取 | Y. Y. L. ニツキ | 香港 |
|    | 受 | K. K. F. カレン | 香港 |
| 2位 | 取 | 入江 浩正        | 大阪 |
|    | 受 | 吉田 勲生        | 奈良 |
| 3位 | 取 | 沖 和久         | 兵庫 |
|    | 受 | 森 憲治         | 大阪 |

固の形

|    |   |              |     |
|----|---|--------------|-----|
| 1位 | 取 | 福田 展樹        | 和歌山 |
|    | 受 | 尾崎 行雄        | 和歌山 |
| 2位 | 取 | K. K. F. カレン | 香港  |
|    | 受 | C. W. フォン    | 香港  |
| 3位 | 取 | 奥村 和之        | 奈良  |
|    | 受 | 木下 朋俊        | 奈良  |

極の形

|    |   |        |    |
|----|---|--------|----|
| 1位 | 取 | 平野 多俊  | 三重 |
|    | 受 | 小林 茂夫  | 三重 |
| 2位 | 取 | 本田 俊宏  | 愛知 |
|    | 受 | 木之本 達明 | 愛知 |
| 3位 | 取 | 奥村 和之  | 奈良 |
|    | 受 | 木下 朋俊  | 奈良 |

柔の形

|    |   |               |     |
|----|---|---------------|-----|
| 1位 | 取 | C. W. Y. グレース | 香港  |
|    | 受 | Y. スズキ        | 香港  |
| 2位 | 取 | 鈴木 由美         | 東京  |
|    | 受 | 老子 千晶         | 神奈川 |
| 3位 | 取 | 鶴飼 沙千         | 岐阜  |
|    | 受 | 森下 美加         | 岐阜  |

講道館護身術

|    |   |       |     |
|----|---|-------|-----|
| 1位 | 取 | 植木 良夫 | 栃木  |
|    | 受 | 古峯 弘道 | 栃木  |
| 2位 | 取 | 石邑 勇  | 千葉  |
|    | 受 | 三田 博之 | 千葉  |
| 3位 | 取 | 前田 和男 | 神奈川 |
|    | 受 | 向 博文  | 埼玉  |

五の形

|    |   |       |     |
|----|---|-------|-----|
| 1位 | 取 | 花本 茂人 | 島根  |
|    | 受 | 藤村 利行 | 和歌山 |
| 2位 | 取 | 清家 春夫 | 千葉  |
|    | 受 | 小池 健三 | 埼玉  |
| 3位 | 取 | 菅 太誠  | 北海道 |
|    | 受 | 前田 肇  | 北海道 |

古式の形

|    |   |       |     |
|----|---|-------|-----|
| 1位 | 取 | 菅波 盛雄 | 千葉  |
|    | 受 | 水野 博介 | 愛知  |
| 2位 | 取 | 清家 春夫 | 千葉  |
|    | 受 | 小池 健三 | 埼玉  |
| 3位 | 取 | 鈴木 常夫 | 神奈川 |
|    | 受 | 三橋 英夫 | 神奈川 |

【別体重別個人戦の部】

M1

|        |    |            |     |
|--------|----|------------|-----|
| 60 kg級 | 1位 | 片山 雄一朗     | 兵庫県 |
|        | 2位 | 岡本 航       | 兵庫県 |
|        | 3位 | ブイツソン ビンセン | 兵庫県 |
|        | 3位 | 小松 裕樹      | 静岡県 |

66 kg級

|    |        |     |
|----|--------|-----|
| 1位 | 宇野 晋太郎 | 熊本県 |
| 2位 | 小谷 武   | 鳥取県 |

73 kg級

|    |            |     |
|----|------------|-----|
| 1位 | 植田 佳徳      | 大阪府 |
| 2位 | 鴨川 裕太      | 大阪府 |
| 3位 | ミヤサカ リュウイチ | 香港  |
| 3位 | 秋山 直太      | 千葉県 |

81 kg級

|    |         |     |
|----|---------|-----|
| 1位 | 眞野 洋光   | 静岡県 |
| 2位 | 小宮山 彰人  | 京都府 |
| 3位 | 井上 直樹   | 奈良県 |
| 3位 | カワイ カスキ | 香港  |

90 kg級

|    |            |       |
|----|------------|-------|
| 1位 | 大町 奨志      | 大阪府   |
| 2位 | 浦崎 晋平      | 福岡県   |
| 3位 | コルヒンデル モリノ | イグナシオ |
|    | スペイン       |       |
| 3位 | 松本 恭兵      | 和歌山県  |

100 kg級

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 出口 雄樹 | 広島県 |
|----|-------|-----|

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 2位 | 下川 真幸 | 滋賀県 |
| 3位 | 原 常之  | 静岡県 |
| 3位 | 藤井 崇  | 愛知県 |

100 kg超級

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1位 | 中山 将男 | 大阪府  |
| 2位 | 合田 良太 | 大阪府  |
| 3位 | 木村 元太 | 兵庫県  |
| 3位 | 西井 佑介 | 和歌山県 |

M2

60 kg級

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 川野 英二 | 愛媛県 |
| 2位 | 猪又 功  | 静岡県 |
| 3位 | 池田 剛  | 兵庫県 |
| 3位 | 大山 隆弘 | 香川県 |

66 kg級

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 原田 大輝 | 兵庫県 |
| 2位 | 松原 好正 | 兵庫県 |
| 3位 | 廣田 正和 | 滋賀県 |
| 3位 | 川野 裕史 | 大阪府 |

73 kg級

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1位 | 田中 秀昌 | 神奈川県 |
| 2位 | 井上 直樹 | 大阪府  |
| 3位 | 松岡 智也 | 鳥取県  |
| 3位 | 三河 良輔 | 徳島県  |

81 kg級

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1位 | 田上 賢三 | 大阪府  |
| 2位 | 松原 猛真 | 和歌山県 |
| 3位 | 山本 博之 | 和歌山県 |
| 3位 | 高橋 雄哉 | 和歌山県 |

90 kg級

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1位 | 坂本 周作 | 神奈川県 |
| 2位 | 青山 善一 | 島根県  |

100 kg級

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 古味 直憲 | 高知県 |
| 2位 | 永井 誠  | 兵庫県 |
| 3位 | 渋谷 善計 | 兵庫県 |
| 3位 | 岩井 学  | 千葉県 |

100 kg超級

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1位 | 堀内 真  | 兵庫   |
| 2位 | 林 典佑  | 和歌山県 |
| 3位 | 浦西 大師 | 京都府  |
| 3位 | 濱永 朋  | 兵庫県  |

M3

60 kg級

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 林 健太郎 | 埼玉県 |
| 2位 | 中島 誠  | 大阪府 |
| 3位 | 倉部 二郎 | 北海道 |
| 3位 | 佐藤 政美 | 宮城県 |

66 kg級

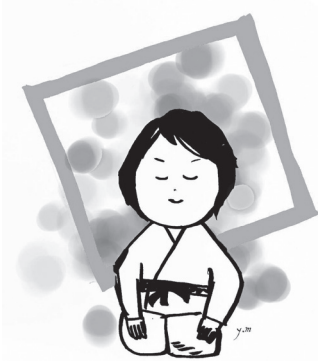
|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 中山 直秀 | 長崎県 |
| 2位 | 田邊 智彦 | 大阪府 |
| 3位 | 福富 賢治 | 京都府 |
| 3位 | 羽原 徹  | 兵庫県 |

73 kg級

|    |                 |      |
|----|-----------------|------|
| 1位 | 小室 宏二           | 東京都  |
| 2位 | ミونس エストラダ フェリコ | スペイン |
| 3位 | 大西 宏明           | 東京都  |
| 3位 | 福富 忠信           | 長崎県  |

|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| <p>81 kg級</p> <p>1位 大島 和也 佐賀県</p> <p>2位 福田 達則 愛知県</p> <p>3位 福島 一宏 神奈川県</p> <p>3位 内田 靖孝 群馬県</p>  | <p>90 kg級</p> <p>1位 松本 勇治 神奈川県</p> <p>2位 キム ユンス 韓国</p> <p>3位 針谷 泰介 東京都</p> <p>3位 本松 武 大阪府</p>  | <p>100 kg級</p> <p>1位 伊勢 ごう 北海道</p> <p>2位 濱中 武史 和歌山県</p> <p>3位 山岸 秀敏 北海道</p> <p>3位 菅 太誠 北海道</p> | <p>100 kg超級</p> <p>1位 浅野 宗樹 京都府</p> <p>2位 今里 満 兵庫県</p> <p>3位 谷川 礼 埼玉県</p> <p>3位 橋爪 清 佐賀県</p>   | <p>M4</p> <p>60 kg級</p> <p>1位 山本 欣也 和歌山県</p> <p>2位 柿原 清剛 佐賀県</p> <p>3位 エリアソンラルス スウェーデン</p> <p>3位 在間 昭治 和歌山県</p>  | <p>66 kg級</p> <p>1位 西尾 真治 埼玉県</p> <p>2位 清水 泰平 神奈川県</p> |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
| <p>73 kg級</p> <p>1位 尾原 弘恭 大阪府</p> <p>2位 土屋 靖 和歌山県</p> <p>3位 眞正 基道 鹿児島県</p> <p>3位 谷本 晃 滋賀県</p>   | <p>81 kg級</p> <p>1位 平野 太 大阪府</p> <p>2位 桑原 喜一郎 埼玉県</p> <p>3位 佐々木 仁史 埼玉県</p> <p>3位 梶谷 亮治 大阪府</p> | <p>90 kg級</p> <p>1位 上園 義明 大阪府</p> <p>2位 松浦 義之 新潟県</p> <p>3位 鈴木 大介 大阪府</p> <p>3位 高宮 和弘 山形県</p>  | <p>100 kg級</p> <p>1位 片山 幸昌 兵庫県</p> <p>2位 平田 和義 大阪府</p> <p>3位 福田 博邦 宮城県</p> <p>3位 松尾 浩二 奈良県</p> | <p>100 kg超級</p> <p>1位 前 保幸 愛知県</p> <p>2位 藤井 宏之 大阪府</p> <p>3位 仲秋 貞博 千葉県</p> <p>3位 津坂 仁 千葉県</p>                    |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
| <p>60 kg級</p> <p>1位 今嶋 禄郎 大阪府</p> <p>2位 松本 史明 和歌山県</p> <p>3位 小山 淳 和歌山県</p> <p>3位 小玉 勉 兵庫県</p>   | <p>66 kg級</p> <p>1位 谷崎 英規 島根県</p> <p>2位 岡村 忠彦 東京都</p> <p>3位 木下 朋俊 奈良県</p> <p>3位 保科 匠吾 富山県</p>  | <p>73 kg級</p> <p>1位 野口 修 大阪府</p> <p>2位 神山 靖久 大阪府</p> <p>3位 下村 貴則 神奈川県</p> <p>3位 北条 博嗣 高知県</p>  | <p>81 kg級</p> <p>1位 小西 康夫 富山県</p> <p>2位 西田 信広 奈良県</p> <p>3位 油屋 康 東京都</p> <p>3位 甲能 武 大阪府</p>    | <p>90 kg級</p> <p>1位 小坂 重人 秋田県</p> <p>2位 ジョン エドワード マックススウェル ニュージーランド</p> <p>3位 森本 正則 滋賀県</p> <p>3位 許斐 記美人 福岡県</p> | <p>M5</p>                                              |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
| <p>100 kg級</p> <p>1位 高橋 俊哉 青森県</p> <p>2位 瀧波 英一郎 東京都</p> <p>3位 鶴藤 幹司 京都府</p> <p>3位 辻村 昌弘 京都府</p> | <p>100 kg超級</p> <p>1位 斉野 謙二 愛知県</p> <p>2位 佐藤 正忠 埼玉県</p> <p>3位 窪田 智之 愛知県</p>                    | <p>60 kg級</p> <p>1位 大屋 智次 福岡県</p> <p>2位 木元 献治 神奈川県</p> <p>3位 品川 雄功 京都府</p> <p>3位 原田 伸治 大阪府</p> | <p>66 kg級</p> <p>1位 平野 嘉一 神奈川県</p> <p>2位 大内 匡憲 東京都</p> <p>3位 伊藤 邦彦 愛知県</p> <p>3位 弓削 清弘 東京都</p> | <p>73 kg級</p> <p>1位 上田 一美 愛知県</p> <p>2位 小川 武樹 神奈川県</p> <p>3位 岡島 俊一 大阪府</p> <p>3位 平野 健太郎 千葉県</p>                  | <p>M6</p>                                              |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
| <p>90 kg級</p> <p>1位 赤尾 信行 山口県</p> <p>2位 佐藤 克広 北海道</p> <p>3位 國吉 真登茂 神奈川県</p> <p>3位 安江 幸師 静岡県</p> | <p>100 kg級</p> <p>1位 黒田 善治 和歌山県</p> <p>2位 川合 健一 大阪府</p> <p>3位 盛 龍也 沖縄県</p> <p>3位 対馬 勝美 青森県</p> | <p>60 kg級</p> <p>1位 北尾 浩 兵庫県</p> <p>2位 西山 五郎 兵庫県</p> <p>3位 辰巳 純二 滋賀県</p>                       | <p>66 kg級</p> <p>1位 鈴木 常夫 神奈川県</p> <p>2位 小久保 隆 愛知県</p> <p>3位 莊司 裕 三重県</p> <p>3位 漆川 厚治 山口県</p>  | <p>73 kg級</p> <p>1位 板東 篤司 徳島県</p> <p>2位 ムニエ ミッシェル 東京都</p> <p>3位 大塚 忠 神奈川県</p> <p>3位 松井 利夫 島根県</p>                | <p>M7</p>                                              |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
| <p>81 kg級</p> <p>1位 大塚 俊彦 埼玉県</p>                                                               |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |
|                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                |                                                                                                                  |                                                        |



|                                                                                                          |                                                                                                            |                                                                                                                          |                                                                                                                                            |                                                                                                             |                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2位 伊藤 民雄 岐阜県</p> <p>3位 井手 宗治 滋賀県</p> <p>3位 石邑 勇 千葉県</p>                                               | <p>90 kg級</p> <p>1位 高木 孝順 東京都</p> <p>2位 水野 博介 愛知県</p> <p>3位 青沼 武 茨城県</p>                                   | <p>M7 M8   100 kg級・M6 M8   100 kg超級</p> <p>1位 上野 清吾 熊本県</p> <p>2位 川野 昭彦 千葉県</p> <p>3位 安立 俊二 兵庫県</p> <p>3位 藤村 利行 和歌山県</p> | <p>M8</p> <p>60 kg級</p> <p>1位 橋本 和佳 千葉県</p> <p>2位 三上 貴士 東京都</p> <p>3位 持永 光久 大阪府</p> <p>3位 石原 泉雄 東京都</p>                                    | <p>66 kg級</p> <p>1位 井上 数夫 神奈川県</p> <p>2位 坂東 雅邦 千葉県</p> <p>3位 原 優 東京都</p> <p>3位 齋院 民雄 神奈川県</p>               | <p>73 kg級</p> <p>1位 羽生 利彦 茨城県</p> <p>2位 高田 茂 大阪府</p> <p>3位 浅田 三男 神奈川県</p> <p>3位 土谷 勝広 千葉県</p>                              |
| <p>81 kg級</p> <p>1位 吉成 隆杜 東京都</p> <p>2位 伴 章二 埼玉県</p> <p>3位 小池 健三 埼玉県</p> <p>3位 森本 薫 神奈川県</p>             | <p>90 kg級</p> <p>1位 吉永 豊貴 大阪府</p> <p>2位 宮原 孝文 福岡県</p> <p>3位 久保 雅昭 東京都</p>                                  | <p>M9</p> <p>60 kg級</p> <p>1位 大矢 八平 兵庫県</p> <p>2位 清水 周 東京都</p> <p>3位 山下 豊 石川県</p> <p>3位 伊賀 信義 山口県</p>                    | <p>66 kg級</p> <p>1位 田房 豊彦 奈良県</p> <p>2位 井田 幹夫 神奈川県</p> <p>3位 中村 正人 北海道</p> <p>3位 山田 雅弘 宮崎県</p>                                             | <p>73 kg級</p> <p>1位 宮脇 政美 香川県</p> <p>2位 内藤 光伸 神奈川県</p> <p>3位 吉野 二郎 島根県</p> <p>3位 鶴内 洋輝 広島県</p>              | <p>81 kg級</p> <p>1位 諸山 和美 愛知県</p> <p>2位 清家 春夫 千葉県</p> <p>3位 渡辺 茂和 奈良県</p>                                                  |
| <p>3位 三橋 英夫 神奈川県</p>                                                                                     | <p>M10</p> <p>60 kg級</p> <p>1位 橋 春夫 大阪府</p> <p>2位 鬼柳 一宇 岩手県</p> <p>3位 勝呂 孝 埼玉県</p> <p>3位 永島 健次郎 千葉県</p>    | <p>66 kg級</p> <p>1位 石本 知也 岡山県</p> <p>2位 大窪 龍史郎 埼玉県</p> <p>3位 増田 三天 兵庫県</p> <p>3位 栗田 明 愛知県</p>                            | <p>73 kg級</p> <p>1位 清水 勝彦 神奈川県</p> <p>2位 村山 充孝 愛知県</p> <p>3位 森川 弘文 茨城県</p> <p>3位 西尾 勝彦 奈良県</p>                                             | <p>81 kg級</p> <p>1位 内藤 純 栃木県</p> <p>2位 彦素 久仁雄 滋賀県</p> <p>3位 飯屋 悟 兵庫県</p> <p>3位 青柳 秀克 京都府</p>                | <p>M10   90 kg級・M11   100 kg級</p> <p>1位 今里 宏一郎 東京都</p> <p>2位 堤 貞介 北海道</p> <p>3位 リックリトルウッド ニュージーランド</p> <p>3位 長田 金八 島根県</p> |
| <p>M11</p> <p>60 kg級</p> <p>1位 杉原 尚 茨城県</p> <p>2位 山本 健夫 東京都</p> <p>3位 岡田 庫二郎 兵庫県</p> <p>3位 笹岡 秀夫 大阪府</p> | <p>M11   66 kg級・M11   73 kg級・M12   81 kg級</p> <p>1位 若月 良夫 新潟県</p> <p>2位 森本 唯行 神奈川県</p> <p>3位 中井 司朗 奈良県</p> | <p>M12   60 kg級・M12   66 kg級</p> <p>1位 高橋 勘十 岩手県</p> <p>2位 美濃岡 清三郎 兵庫県</p>                                               | <p>F1   68 kg級・F2   57 kg級・F2   63 kg級・F3   63 kg級</p> <p>1位 稲田 環 山口県</p> <p>2位 諫山 千絵 愛知県</p> <p>3位 チョイ ウェイフォン 香港</p> <p>3位 吉田 奈美 和歌山県</p> | <p>F1   78 kg超・F2   78 kg超・F3   78 kg超</p> <p>1位 野村 紗矢香 和歌山県</p> <p>2位 中尾 小都枝 鹿児島県</p> <p>3位 岩崎 宏美 和歌山県</p> |                                                                                                                            |
| <p>F2   70 kg級・F4   70 kg級</p> <p>1位 ソリドール マーヤ 東京都</p> <p>2位 古川 しげみ 鹿児島県</p>                             | <p>F3   52 kg級・F5   52 kg級</p> <p>1位 西森 沙恵 兵庫県</p> <p>2位 伊藤 里実 和歌山県</p> <p>3位 ミルネスハンネ ノルウェー</p>            | <p>F5   57 kg級・F5   63 kg級</p> <p>1位 岩田 美喜 愛知県</p> <p>2位 稲垣 富美子 和歌山県</p>                                                 | <p>F6   52 kg級・F9   52 kg級</p> <p>1位 山中 智視 香川県</p> <p>2位 加古 若子 愛知県</p>                                                                     |                          |                                                                                                                            |

2017年日本ベテランズ国際柔道大会(第14回日本マスターズ柔道大会) 団体戦

2017 Japan Veterans International Judo Championships / Teams Results

|                                        |                  |    |                |    |                                                 |                 |
|----------------------------------------|------------------|----|----------------|----|-------------------------------------------------|-----------------|
| 柔錬会 A<br>JUREN-KAI A                   | 混成<br>Mixed      | 1  | 男子団体戦<br>MEN   | 16 | 東京柔道BAKA<br>TOKYO JUDO BAKA                     | 東京<br>Tokyo     |
| 同志社WRJC B<br>DOSHISHA WRJC B           | 京都<br>Kyoto      | 2  |                | 17 | 衣川柔道同好会 B<br>KINUGAWA JUDO DOKKOUKAI B          | 兵庫<br>Hyogo     |
| セキュリティ・パワーズ<br>SECURITY POWERS         | 東京<br>Tokyo      | 3  |                | 18 | 同志社WRJC A<br>DOSHISHA WRJC A                    | 京都<br>Kyoto     |
| 滝川塾<br>TAKIKAWAJUKU                    | 和歌山<br>Wakayama  | 4  |                | 19 | 北海道さんご柔道 da BEAR<br>HOKKAI DOSANKO JUDO DA BEAR | 北海道<br>Hokkaido |
| つくば大木塾<br>TSUKUBA OKIJUKU              | 茨城<br>Ibaraki    | 5  |                | 20 | エネルギーチーム B<br>ENERGY TEAM B                     | 東京<br>Tokyo     |
| 札幌柔道連盟<br>SAPPORO JUDO FED             | 北海道<br>Hokkaido  | 6  |                | 21 | 純滋賀<br>JUN-SHIGA                                | 滋賀<br>Shiga     |
| エネルギーチーム A<br>ENERGY TEAM A            | 大阪<br>Osaka      | 7  |                | 22 | 柔錬会 C<br>JUREN-KAI C                            | 混成<br>Mixed     |
| 元気ひむか<br>GENKI HIMUKA                  | 混成<br>Mixed      | 8  |                | 23 | 八尾柔道協会<br>YAO JUDO ASSOCIATION                  | 大阪<br>Osaka     |
| 日高<br>HIDAKA                           | 和歌山<br>Wakayama  | 9  |                | 24 | 修心会<br>SYUSHIN-KAI                              | 混成<br>Mixed     |
| 丸の内柔道倶楽部 B<br>MARUNOUCHI B             | 東京<br>Tokyo      | 10 |                | 25 | 名柔研<br>MEIJUKEN                                 | 愛知<br>Aichi     |
| 衣川柔道同好会 A<br>KINUGAWA JUDO DOKKOUKAI A | 兵庫<br>Hyogo      | 11 |                | 26 | 豊中市役所<br>TOYONAKA CITY                          | 大阪<br>Osaka     |
| 東京武道館柔友会<br>TOKYO BUDOKAN              | 東京<br>Tokyo      | 12 |                | 27 | 丸の内柔道倶楽部 A<br>MARUNOUCHI A                      | 東京<br>Tokyo     |
| 近紀会<br>KINKI-KAI                       | 混成<br>Mixed      | 13 |                | 28 | 振勇義館<br>SHINYUUGIKAN                            | 和歌山<br>Wakayama |
| 納所柔道クラブ<br>NOUSO JUDO CLUB             | 京都<br>Kyoto      | 14 |                | 29 | ニュージーランドチーム<br>NEW ZEALAND TEAM                 | ニュージーランド<br>NZL |
| 明道館<br>MEIDO KAN                       | 福岡<br>Fukuoka    | 15 |                | 30 | 柔錬会 B<br>JUREN-KAI B                            | 混成<br>Mixed     |
|                                        |                  |    | 女子団体戦<br>WOMEN | 31 | 坂出市柔道協会<br>SAKAIDE JUDO ASSO                    | 香川<br>Kagawa    |
| AGARA 紀州<br>AGARA KISHU                | 和歌山<br>Wakayama  | 1  |                | 3  | 愛知デラックス<br>AICHI DELUXE                         | 愛知<br>Aichi     |
| 鹿児島<br>KAGOSHIMA                       | 鹿児島<br>Kagoshima | 2  |                | 4  | 三国<br>SANGOKU                                   | 混成<br>Mixed     |



## 第九回

### ベテランズ国際大会

#### 参戦記

十七名の選手が参戦

日本マスターズ柔道協会  
副会長 内藤 純(栃木県)

はじめに、平成二十九年は、日本でベテランズ国際柔道大会が和歌山県白浜市にて地元関係者の方々の協力を頂き、大変盛大に開催できました事を深く感謝申し上げます。

続いて、九月三十日～十月三日まで、世界国際柔道大会がイタリア・サルデーニャ島・オルビアで開催され、表記の方達と参加して参りました。

最初はマスターズ協会として参加を募りましたが、参加人数が少ない事もあり、費用が大変な金額になってしまうという事で、今回は個人で参加し、申し込みも各自それぞれで、手続きを取ることにしました。その後、埼玉の中島先生のお骨折りで、何とか上手にやれば行けるのお話があり、そちらにお願いして参加予定表を作制して頂き、選手七名と応援一名の八

名が中島先生に多大なお骨折りお掛けしましたが、無事に大会とローマ観光を行う事が出来ました。

大会成績は、相手に恵まれた人や相手に恵まれなかった人などそれぞれでした。試合終了後のローマでは、数々の世界遺産を見学し、実り多い楽しい旅ができました。今回は、成田からの案内人無しで出発しました。

少々心配でしたが、ローマ到着後から、日本人ガイドの方を通訳としてお願いしました。この方が色々なことをテキパキこなしてくれたので、試合会場でも大変助かりました。又、大変快適な旅が出来ました。

八名全員が無事にかつ元気に成田に戻って来る事が出来、皆様のお陰と深く感謝しています。平成三十年はメキシコ開催だそうです。多くの方の参加がそうです。多くの方の参加があればと思っています。

参加選手

|       |            |
|-------|------------|
| 中島 忠  | マネージャー     |
| 内藤 純  | 団長         |
| 五十嵐徳英 | 副団長・通訳     |
| 飯塚 正春 | 広報・記録      |
| 井田 幹夫 | 副マネージャー・写真 |
| 上木 保男 | 監督         |
| 金元 信善 | 広報・記録      |

内藤 和子 応援・写真



柔道からJUDOへ

表彰台で実感

副会長 吉成隆杜(東京都)

二〇一七年九月末、イタリアで開催された世界ベテランズ柔道大会で、表彰台の一番高い所に立って君が代を聞くという経験が、生まれて初めて出来ました。

正直なところ、子供の頃から何度も聞いた楽曲としての君が代は、特別好きな曲ではありませんでしたが、表彰台で聞く君が代は、何とも形容の仕方が分

からないほど素晴らしいものでした。曲は聞く場所、場面、タイミングによって、これほど感じ方が変わるものかと痛感しました。これからは、カラオケも君が代にしようと思ったほどです。

私にとって今回の参加は二回目でしたが、日本のベテランズ大会の倍以上の選手が集まりトーナメントで戦うこの大会は、世界選手権やオリンピックと並んで柔道競技の中でも特別なものです。参加する人数も、国の数でも、これほど多くの選手が集まる大会は他のスポーツには例を見ないので、日本人として本当に誇らしく思います。

飛行機もなく海外旅行に大金を要した百年以上前の明治時代に、多くの柔道家を派遣し、東洋の小国で生まれた柔道を世界に広めんと志し、今や国連加盟国よりも多い国に柔道を根付かせた嘉納治五郎師範の慧眼には言葉がありません。

しかし、近年のグローバル化に伴い柔道は大きく変化しています。昔習った柔道からJUDOになり、これからはますます変わっていくと思われます。それはルールだけでなく、次から次に生まれる新しい業やトレー

ニング法に至るまで、どんどん変化していく筈です。その中で、武道としての柔道を如何に守り、新しい柔道を如何に広めていくかが、今日の日本人柔道家に課された責任であることを痛感します。



世界ベテランズ大会に参加して

―後続の奮起に期待

神奈川県 井田 幹夫  
(M9・66kg)

先ず私ことに関して、今回もフロリダ大会と同様にM9の60キロに参加することになっていましたが、残念ながら66キロへと統合されて、せつかくの半年に

わたる減量は無に帰した。で成績はというと銅メダルで、教子達への帰国報告になんとか格好がつけられた。フロリダと今回と二度の体重統合の憂き目にあったので、次回から減量はやめて、あるがままの体重で大会に臨むことにした。

大会で私を感じたこと。また今後のベテランズ大会について。

○会場を歩いていると、ポンと背中を叩かれ、振り向くと二人の選手がいっしょに写真をと、自撮棒を取り出して写真を撮られたり、また表彰後に会場でメダルを掛けて写真を撮っている、小学生がひよこひよここと畳に上がって側まで来ると、メダリストの私と写真をいっしょに撮りたいといってきた。そして父親らしき人物が、場外からしきりに写真を撮っていた。また観客席で目が合うと、微笑ながら目礼をされたりして、日本人柔道家に対するリスペクトを感じた。

○大会の観客席には多くの女性や子どもが見受けられ、おそらく三分の一はいたと思われる。勿論参加する選手の家族はもちろんだが、それ以外の人もけっこういたのではないだろうか。女性群による、お揃いの帽子とユニホームの応援団も来ていて

試合のなかで美技が出ると国籍に関係なく拍手が送られ、特に自国の選手が勝利すると、喝采の嵐であった。私は自国イタリア選手と対戦し、移り腰で見事に投げられた時、ものすごい拍手が会場から鳴り響いたのを記憶している。日本でいつになったら、こうした大会が見られるのであろうか。期待したいところである。

○去年IJFの八十歳定年制が導入された。今回M・IIで出場しようとした数人の柔道家が参加を断念されたと聞く。今後この定年制導入は徐々に参加者数に影響を与えるであろう。というのは今回の世界ベテランズ大会選手団七名のうち七十歳以上は五名である。(M・8、M・6各一名) 年々世界ベテランズ大会への参加者が減少しているなかで、(去年は十三名、一昨年は十四名)七十歳以上の高齢者が大きな比重を占めている。今後M・9以下の参加者が増えないと、個人的な形で世界ベテランズ大会への参加者はいるとしても、日本マスターズ協会としての派遣は消滅してしまうのではないだろうか。それには先ず高額の旅費をできるだけ削減し、できたら少額でもいいから参加者への補助金などを考慮してい

ただき、若年から後期高齢者を包含する重層的なベテランズ選手団ができれば幸いである。

○さて、大会会場へ行くとトーナメント表が掲示していない。一番気になる同じカテゴリーの出場選手が何人いるのか、さっぱりわからない。加えて自分はM・9の60キロなので、去年は66キロに統合された経験から、今年とは気にかけていたが、トーナメント表がないのでどうなったのか気持が落ち着かない。そのうち控え室の入り口にカテゴリーごとの順番と試合場が表示がされたので、通常は出場すべき試合場の進行状態を見ていけばいいのだが、やはり自分のM・9の60キロの表示がなく、したがってどここの試合場なのかわからない。たまたま去年フロリダで66キロで試合をしたアメリカ選手に会場で会ったので、どうなっているのかと聞いたら、「あんたは66キロだよ、対戦表はWEIでわかるよ」といった。それで彼が確認のためスマートフォンを取り出して操作したが、どうも不具合で確認できない。どうも会場では通じないようだ。しかしこれで自分は去年と同様に66キロと決まったようだ。そのうち電光掲示板に自分がM・66キロとして名前が表示

され、試合場は第四試合場とわかりほっとした次第である。

私が長々と気付いた点を書いたのは、選手たちが共通に持つ、不安な気持ちを有る程度代弁できるのではと思ったからに他ならないで。なにしろ試合前の様々な確認事項、それに加えての拙い語学力を駆使しての会場でのやり取りは、老年者にとってはとてもしんどいの一語につきる。たしかアブダビやスペイン大会では全柔連から当地に派遣されていた柔道家が会場に来てくれて、有る程度我々の手助けをしてくれたが、今回と去年のアメリカ大会では誰も来ていなかったと思う。

世界ベテランズ大会が誰でも自由なオープン参加とはいえ、私を含めて子ども達に柔道で多面的な形で関与している指導者である。ベテランズ選手の一人一人のバックには多くの子ども達が存在していることを忘れないでほしい。

世界ベテランズ大会に指導者が参加すること、メダルを獲得することはきっと教え子達に関心と呼び起こし、刺激を与えつつ、また保護者の見る目もきつと変わるにちがいない。そして近年の青少年の柔道人口の減少を阻止し、引いては柔道の底辺

拡大に多少とも繋がると自負している。是非とも全柔連のバックアップを念願するものである。



世界ベテランズ柔道大会／  
イタリア・オリーブアに参加して

— IJFの大会運営に疑問

千葉県 五十嵐 徳英  
(M・9・73kg)

今年(二〇一七年)も、日本マスターズ柔道協会の「世界ベテランズ柔道大会参加ツアー」に加えて頂き、二回目となるIJFの世界ベテランズ柔道大会に出場しました。IJF大会となる前に日本開催(二〇〇三年



／講道館）の世界マスターズ柔道大会に参加していましたので、世界大会としては三回目になります。今回の世界大会へは、自分にとって年齢区分のM9（七十才～七十四才）の最終年の年で、是非とも記録に残る試合をしたいとの思いで参加しました。

試合の結果は銅メダルの獲得でしたが、去年のフロリダ大会以上の結果を目指した身としては不服ですが、逆に考えれば、さらに上の結果を求める次の目標が出来たと、負け惜しみを言いつつながら稽古に取り組む気持ちになっています。

去年のフロリダの大会でも感じた事ですが、試合運営の状況はあきれるばかりで、大会に参加した選手に対し、プログラムもパンフレットも無く、大会運営当局から選手に配布された資料は、参加した選手自身の名前を記した参加証（添付参照）のみで、トーナメントの組み合わせ表が会場に張り出されることもなく、参加した区分にエントリーした選手が何人居るのかも判らず、自分がどの国の誰と対戦するのも判らず、試合の直前に、マットNo（試合場）と氏名と国名と使用柔道着の色が電光掲示板に表示されるのみで、自身が着ている柔道着の色

が違う場合には、その表示を見てから慌てて着替える状態で、選手がアップに専念出来ず、どうなっているんだという感じでした。国柄がそのような所なのではないかと云う事なのかは分かりませんが、日本の大会運営は素晴らしいと改めて感じ、全柔連にIJFの試合運営を指導して貰いたいと感じるほどでした。

国柄と云えば、ローマの国際空港の中の免税店等が並ぶ中の売店ではアイスクリームを買うのにも、お金を払うために並びチケットを貰い、次にもう一度対象品を貰うためにチケットを持って並ぶと云う、ものを扱う店員とお金を扱う人は別と、なんとも非効率な方法で対応していました。二〇〇〇年の昔にコロッセオや古代の都市水道のような立派な遺跡を残した人々の末裔とは考えられないと感じ、あまりに発展し楽な生活が続くと努力の必要性を感じなくなり、結果として長い間に退化してしまふのかもしれないと感じた次第です。

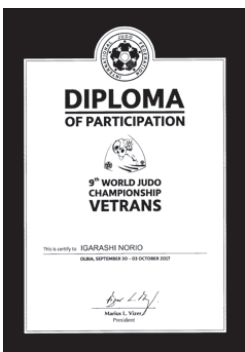
前回フロリダ大会に参加の際は、アメリカと云う国の規模の大きさ（国土の広さ、経済の豊かさ含め）に感じ入り、見聞を広めるためにも次回の大会に参

加したいと報告しましたが、今回ローマの遺跡の見学を通じ、日本の弥生時代の後期に、既にあのような遺跡を作り上げる人々が居たと云うことを見聞きし、短い期間ですが外国の風物に触れられ、柔道の試合でまだ目標が先にあると感じたことと併せ、参加して良かったと思っています。

今回はメキシコでの大会と聞いていますが、柔道の目標達成と見聞を広めるために、皆さんと一緒に参加したいと考えています。



下の写真はM9／73Kg級の表彰写真です



参加証（A4の紙1枚）

### 第9回IJF ペテランズ国際柔道大会 (9.30・10.3)

2017年10月3日



| 【選手】      |        |        |
|-----------|--------|--------|
| M5・60kg級  | 山田 直   | 敗者復活敗退 |
| M1・66kg級  | 宇野 晋太郎 | 2位     |
| M2・66kg級  | 原田 大輝  | 3位     |
| M3・66kg級  | 中山 幸久  | 1回戦敗退  |
| M9・66kg級  | 飯塚 正春  | 2位     |
| M9・66kg級  | 井田 幹夫  | 3位     |
| M3・73kg級  | 小室 宏二  | 優勝     |
| M4・73kg級  | 宮本 功三  | 優勝     |
| M7・73kg級  | 大塚 忠   | 5位     |
| M9・73kg級  | 五十嵐 徳英 | 3位     |
| M10・73kg級 | 内藤 純   | 優勝     |
| M10・73kg級 | 中島 忠   | 4位     |
| M1・81kg級  | 青木 太郎  | 欠場     |
| M6・81kg級  | 金元 信好  | 1回戦敗退  |
| M7・81kg級  | 大塚 俊彦  | 1回戦敗退  |
| M8・81kg級  | 上木 保男  | 敗者復活敗退 |
| M8・81kg級  | 吉成 隆杜  | 優勝     |





メダリスト達



観客席は応援団でわきたっている



試合会場

イタリア・サルディニア島  
試合会場

内藤さんはイタリアサルディニア島オルビアで9月30日、10月3日に開催された「第9回IJFベテラン国際柔道大会」の75kg才、73kgの部に出場し、各国から参加した3人と対戦。一本勝ち2つ、判定1つで勝利し金メダルを獲得した。



金メダルで表彰台(中央)

昭徳館柔道道場(通称6丁目)館長の内藤純さん(77)が柔道の世界大会で優勝を果たした。

内藤さんはイタリアサルディニア島オルビアで9月30日、10月3日に開催された「第9回IJFベテラン国際柔道大会」の75kg才、73kgの部に出場し、各国から参加した3人と対戦。一本勝ち2つ、判定1つで勝利し金メダルを獲得した。



昭徳館の中学生と

昭徳館柔道館長  
**内藤 純さん**  
世界大会で金メダルを獲得

別で競われる。同大会出場には78kgから5kg減量して望んだ。これまで世界大会14回、国内11回の優勝を誇るまさに「レジェンド」。日本マスターズ柔道協会の副会長も務める。

内藤さんは常念寺(通称7丁目)の住職でありながら、柔道8段、空手5段、レスリング4段の腕前。趣味のパラグライダーで空を飛び、今月に開かれるスキー大会にも出場するという元気がふり。

同道場は昭和9年に創設し、現在、息子で同寺園長、副住職の弘純さんと智弘さんとの指導にあたる。地元のみならず、群馬県からも学生が指導を仰ぎに訪れ、多くの優秀な柔道家を育ててきた。

道場に飾られている柔道の創設者・嘉納治五郎氏直筆「精力善用」(心身の持つすべての力を最大限に生かして、社会のために善い方向に用いるの意)が座右の銘。

「何事も80%の力でやるのが継続する秘訣。100%だと毎日出来ません」。実践して得たまさに珠玉の言葉。

今回は私の二回目の編集でした。まず、原稿をどういう基準で依頼するかが問題であった。これまではその年の大会の優勝者と準優勝者に原稿依頼のハガキを出すという方法を取っていたようでしたが、返信の確率が低いことと、毎年同じ人からの投稿が多くなってしまうという欠点があった。

そこで、原稿依頼をピンポイントで出してみようということになった。まず、執行部の役員に推薦してもらうことにした。約二十五名の名前が挙がった。さらに浅田理事から、「初参加特集」との言葉が出た。私はこれに飛びついた。初出場の選手の中から優勝と準優勝の人を選び、原稿依頼をすることにした。理事推薦と合わせると四十名になった。

ところが、一ヶ月経っても、二、三名の投稿しかないのがある。そこで、全員に電話を掛けることにした。その結果が今回の会報の記事になったというわけである。四十名中三十三名が原稿を送って下さり、その他は世界ベテランズ大会参加者の手記が四名、ご自身の意向で送って来られた方と役員の方々で十名、総勢四十七名の手記ということになった。

## 編集後記

その中で、連勝を続けておられる方と初参加の方を別括りにしてみた。連勝の方は、壮絶な文章が多く、その努力、精進、意思の強さに頭が下がる思いだった。やはり並大抵のものではないのだと、改めて連勝の偉大さを感じた次第であった。一方初参加の方々のマスターズに対する新鮮な感激は、結果が良かったこともあり、今後に繋がるものだという印象であった。

そのほか、小室宏二氏に技の解説を、前会長の清家春夫氏に嘉納師範の古式の形演武の話をお願いしたりと新しい趣向を試しているの、お読みいただきたい。

西谷 博一